

南園會報



第六號



新法製成安樂園



新法製成安樂園

山口縣阿武郡立  
實科高等女學校

# 南園會報 第六號

## ● 教 の 園

○ 嗚呼本校創立滿五年記念式典(一)會長 米原鶴太

## ● 學 の 園

- 手甲の拵へ方……………(四) ……特別會員：藤野 カ子
- 燕より得たる教訓……………(六) ……特別會員：池上岩太郎
- 思へることゝも……………(八) ……特別會員：奈良小千代
- 物價騰貴に處する覺悟(一〇) ……特別會員：堀江ウタコ

## ● 本校記事

會報部

- 一、男爵高木醫學博士の來校……………(一二)
- 二、大正六年の身體検査……………(一三)
- 三、縣下高等女學校長協議會の開催……………(一三)
- 四、大正六年の養蠶……………(一三)
- 五、補習科修了生の無試験檢定……………(一四)
- 六、海軍記念日と講話……………(一四)
- 七、江部文部省視學委員の視察……………(一四)
- 八、縣下中等學校長會議の開催……………(一五)
- 九、至厚院故入原文子刀自一周忌追悼會……………(一五)

- 一〇、林知事の視察……………(一五)
- 一一、福原男爵の來校……………(一六)
- 一二、本縣知事より賞狀及び木杯下附……………(一六)
- 一三、開校記念會並に菊花會……………(一六)
- 一四、第七十一聯隊演習參觀……………(一七)
- 一五、校外教授の一日……………(一七)
- 一六、第二回體育演習會開催……………(一八)
- 一七、皇太子殿下御眞影拜戴式舉行……………(二〇)
- 一八、第二回薙刀仕合型賽稽古開催……………(二二)
- 一九、擴張工事落成式及び開校五周年記念式舉行……………(二三)
- 二〇、我が校の擴張……………(二三)
- 二一、第六回保證人會開催……………(二四)
- 二二、製絲實習……………(二五)
- 二三、山川總長の來校……………(二五)
- 二四、陸軍記念日と講話……………(二五)
- 二五、中川知事の視察……………(二五)
- 二六、郡内小學校長の來觀……………(二六)
- 二七、第六回卒業證書授與式及び第五回修了證書授與式舉行……………(二六)

の人員氏名を發表するに至れり。志望者、一年生百十五名の中百名を、又二年生四十九名の中四十五名を、三

二八、先生の轉任と退職……………(二七)

二九、本學年の開始……………(二六)

三〇、先生の就任……………(二六)

三一、兒玉陸軍中將の來校……………(二九)

三二、毛利公爵の來校……………(二九)

三三、校外教授の一日……………(二九)

●本會記事 會報部

一、皇后陛下御誕辰祝賀會並に  
新入會員歡迎會の開催……………(三〇)

二、第四回同窓會の開催……………(三一)

三、卒業生修了生の送別茶話會……………(三一)

四、南園會維持費寄贈……………(三一)

●校外會員消息……………(三一)

●篤志者芳名……………(三五)

●校外會員會費納入……………(三五)

●會員名簿……………(三七)



山口縣阿武郡立 南園會報 第六號  
實科高等女學校

教の園

嗚呼本校創立滿五年記念式典

會長 米原鶴太

本日を下し、貴賓並に當校に縁故深き各位及び本校出身諸子の蒞臨を得、已往を懐ひ將來を期する感興の中に此の式典を擧ぐるを得るは、衷心感激に堪へざるところなり。閣下茲に各位、莫くは暫時懷舊的事實の陳述を許されんことを。

想起す。明治四十三年三月、本校設置の件協定せられ、本校の恩人久原母堂の寄附援助となり、同年九月には設置認可の文部省告示となり、同年十二月、萩町は、毛利公爵家より特に教育の爲に譲受けられたる校地提供の擧となりて、愈々建築起工となり、越えて四十五年三月五日には學則の設定となり、同月三十一日には學校長以下職員の任命を見るに至り、四月四日に郡衙城内の阿武郡會議事堂内を借用して、其處に職員一同參集し事務を始め、同月九、十、十一の三日に亘り、郡衙樓上に於て入學試験を執行し、同月十五日、同試験合格者の人員氏名を發表するに至れり。志望者、一年生百十五名の中百名を、又二年生四十九名の中四十五名を、三

年生三十三名の中三十名を選抜して入學を許可したり。同月二十二日萩町の好意にて、明倫小學校の域内有備館を借用するを得、此處にて入學式を舉行し、一面萩町小橋筋の貸家を借入れて假寄宿舎に充て、五月二十八日には、同窓會にして且つ本校の施設に對する援助たるべき南園會の發會式を行ひ、六月十五日久原家の來萩を好機とし、萩町八丁の新校舍棟上式及び久原母堂との對面式を舉行し、同月二十九日に新校舍に移轉したり。而して明けて大正二年の四月には卒業生の便利を謀り、本省の認可を得て、更に補習科を設置し、十一月三日には開校の式典を舉行し、同四年四月には、時勢の進運と土地の狀況に鑒み、本省の認可を得て毎週教授時數の増加を行ひ、翌五年十二月には、久原令夫人の御母堂精神繼承の本報擴張に關する寄附援助となり、茲に本日をして建築及び校地取廣めの擴張工事竣功を告げたるを好機とし、昨年舉行すべかりし滿五年の記念祝賀の式典を擧げ得るに至りしことを感謝歡喜する次第なり。

此の草創建設の始に當り、不肖乏しきを本校校長に受け、内は職員の協力に依り、外は閣下並に各位の援助を得來り、殊に久原家並に其の御一族の同情は勿論、累代の郡長及び縣郡の當局、本郡議政の衝に在る方々、有力家又各村の當局及び教育家、別けて本校所在の萩町及び附近の各村等の同情を蒙り、實に今日あるを得たりしなり。此の機會を以て、本校の施設中聊か力を用ひたりと信するもの二三を陳し、以て將來奮勵の資となさんことを期す。

一、修業の要旨が品性の修養に在る所以を貫徹せしむるに最も重きをおき、感恩の情操的涵養と謙讓勤儉の風を鼓吹したること。

二、所謂實科的の勵行を貫徹するに努め、力行作業の風を高調したること。

三、去華就實の實現に留意し、白襟袴の風を勵行したること。

四、日本武道的體育の獎勵を圖り、長刀及び弓術等を高調したること。

五、實科的施設と本科的教科の調和を工夫し、家庭必須の技能に注意し、生花茶儀按摩及琴等の練習をも實施したること。

如上の實現固より前途遼遠の觀ありて、所謂理想希望の上より見ては九牛の一毛にも尙足らず。又各位の觀察よりせば、必ずや不満足の事も多かりしなるべく、隔靴搔痒の憾ありしこと一にして足らざるべし。實に百里の道は九十里を半とすべきものなるを考へ、熟々已往を回顧して更に將來を觀望し、大に奮勵努力の要あるを感ぜざるを得ず。

嗚呼、今や此の滿五年記念の祝典を迎へ、更に本校の一新紀元を劃し、銳意益々改善を圖り、創立當初の激刺たる意氣の振興を企圖するの要を切實に感せずんばあらざるなり。是等記念式の眞精神と謂ふべきか。今此の辭を結ぶに際し、創立當初の職員中現に在職のものは、不肖と中野、本永、世良、河村中村の五氏とにして、豊田、松宮、竹内、松田、三隅の諸氏は今や在らず。然れども爾來又其後任者を迎へて益々内助を得るに至れり。今此等一同并に在校者を代表し、愈々拮据黽勉して國家及び郡立たるの期待に副ひ、殊に今日示されたる惡篤なる訓辭と祝詞の厚意とに對ふる處あらんことを期す。願くは、此盛典をして温故知新、以て深き意義を有せしめ、今後尙一層の聲援あらんことを。是を以て答辭となす。

學の園

手甲の拵へ方

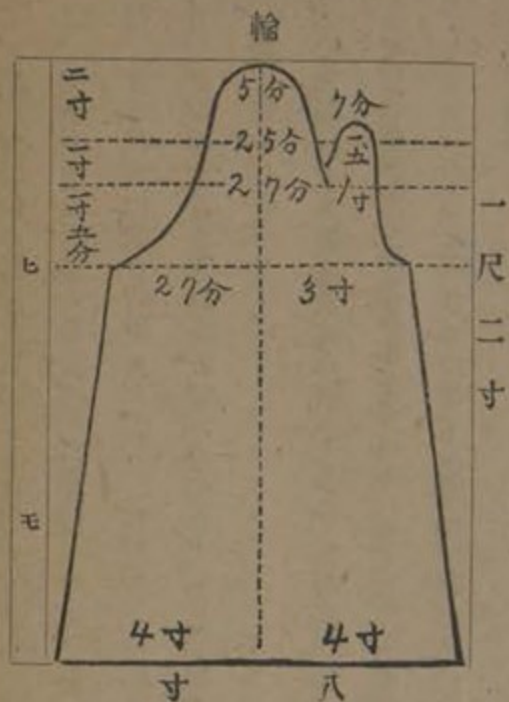
特別會員 藤野カネ

一、用布

無地木綿にて表裏各並幅二尺四寸を要す。  
但し半裏附の裏地は一尺五寸にてよろし。

二、裁方

1 母指あるもの

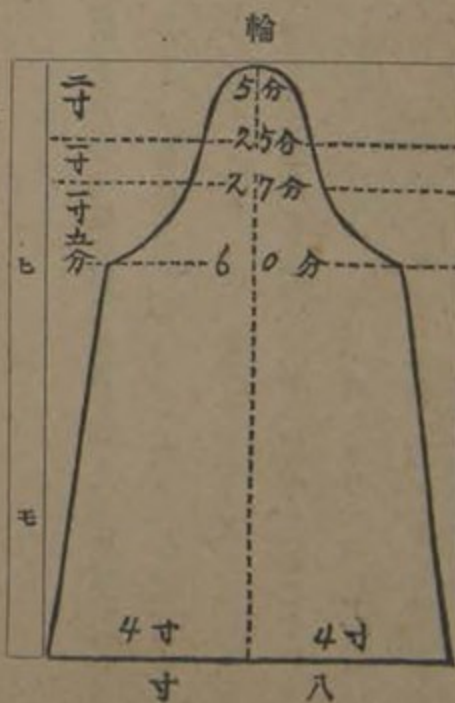


一尺二寸

3 裏の指先ひかへ方



2 母指なきもの



一尺二寸

4寸 4寸  
寸 八

三、縫方

- 1 表布にて三分幅長さ二尺四寸の紐一本と、二分幅長さ一寸五分の乳一つとをつくり置く、
- 2 表裏を合せ口明を一寸五分位として、一方の口明より縫ひ始め、指先を廻りて一方の口明まで縫ひて表にかへし、
- 3 裏を表裏とも二分位内に折り込み置きて、口明より裏を袖下を四つ縫ひにし折は外袖の方へかへし、
- 4 左の袖山には乳を、右の袖山には紐をつけてよく留め置きて裏を締む、
- 5 内袖の口明に掛糸を、外袖の裏側にはコハセをつけ、尚中指に當る所には程よき所を見計ひて指の掛糸をつけて仕上ぐ

四、仕上の圖



燕より得たる教訓

特別會員 池上岩太郎

私は昨年六月一日から本會の一員として、皆様の御世話になることとなりました。新加入の御挨拶をかねて、嘗てものして見た拙いことを、こゝに掲げることいたしました。

世の進歩は合同生活によつて得られる、合同生活の範圍は種々あつて、大は人類國家より縣郡市町村及び學校、小は親類家族等がある。自分が唯一人、奥山に住んで木實草芽などを食して居ては道德の必要もありませんが、苟くも二人以上相合同して暮すことになる。則ち利害の衝突が起る、互に利己ばかりやつては治まらぬ、自分の爲したいことでも人の害になることは之を爲さず、自分は骨が折れても人のためになることは之をしてあげることが必要とある、これが道德で社會進歩の基礎であります。

さて此の道德には種々のことがありますが、其最根本のものは孝道であります。何となれば合同生活の最も自然なるものは親類や家族などの如き血族團體であり、其中最親密なるものは親子の關係であり、そして子を愛護し、子として親を敬愛するは人情の

自然で此の美しい相愛の人情がやがて一切道德の根源となり、孝は徳の本なり、とは此事を申すのであります。親に孝行が出来ぬやうでは、とても其他に對する道德は出来るものではありませぬ、それで子供を教育するには折に觸れ機に應じて或は模範を示し或は教訓を施して以て、此の根本的基礎的の道德たる孝道を養成するやうに力めねばなりません。

私はこれについて極身近なことを利用して稍効果を得たと思ふ一の経験があるから之を述べて見ませう、それは題に掲げておいた燕より得たる教訓であります。

毎年六月の初頃になると我家の鴨居に燕が巢を作り雛を育てるが中々汚はしくて面倒なことが多いから時には之を作らせまいかと思つたこともあるが近頃は之を子供の教育上に利用して効果のあることを思ひ之を歓迎し之を保護してやることにして居ます、數年來之を教育上に利用して、子供等をして或は觀察せしめ或は保護せしめ或は之に關して教訓を與へなせした梗概を記しませう。

其熱心にして巧妙なること感ずるに餘あり

二巢を桁梁なせの上の如き作り易き所には作らで、間壁の下に僅に出で居る鴨居の稜を便りとして築立てるのは何故か、これ蛇や鼯の害を避けるために、斯かる困難を忍んで營爲するので、心懸の行届いたこと

三産卵後十餘日の水き間、始終巢の中に伏せて靜に卵を暖め孵へさせること

四卵が孵へて雛となると今度は之に蝶、蛇、蜻蛉の類を捕つて来て食はせる、雛は成長すればする程、餌を多く欲しがらる、親鳥が餌を啄んで歸來する毎に五六羽の雛は何れも大きい黄色の嘴を開いてチイ／＼と鳴く親鳥は何れにも肌じい目を見せまいと思つて朝から晩まで一生懸命に羽めぐり、餌を捕へては歸り喚はへては歸りして順次に與へ養ふ。其の精出す様は驚くの外ない。そして自分には少しも倦怠疲勞の風は見せず、只管に雛の成長するのが嬉しくてならぬといふ様子である、之を觀察すると、自然に嗚呼親の御恩は有難いものだとの感が出る。

五若し人でも巢の近傍へ来てアラ／＼して居るのを見るとき親鳥は氣遣つてチイ／＼と叫び狂氣の如くになつて羽けまはる、其の様は真にいぢらしい、依つて之を氣遣はせない様にしてやること。

六雛が飛翔し得る様になつたら、親鳥は之を伴つて外に出で、木の枝に止らせておいて餌を捕へ來つて食はせて居たが、後には相伴つて羽めぐつて居る、多分餌を捕ることなど教へるのであらう、そして晩には相伴つて巢に歸り、安らかに眠についた、かくすると二三日にして雛は漸く獨りで飛びまはり餌も捕り得る様よなる、モウ親を見捨て、何れへか飛び去つて仕舞ふた、親鳥は子鳥等の行方の不明になつたのを歎悲んで或は巢にもどり或は外に飛出でさも氣遣はしく悲しげに鳴いて羽めぐつて居る、嗚呼可愛さうなは親鳥である、惡むべきは思知らずの子鳥等である。

大体右様のことでございますが、また程度によつては種々に附加して教訓すべきことは幾らもありません。左に掲げたる白樂天の詩は實に深き教訓の意を寓して居ると思ひます。

- 梁上<sup>有</sup>三雙燕、<sup>詔</sup>々々、雄、與、雌、<sup>斷</sup>泥、<sup>兩</sup>椽、<sup>間</sup>
- 一巢生<sup>三</sup>四兒、<sup>四</sup>兒、<sup>日</sup>夜、<sup>長</sup>、<sup>窠</sup>、<sup>食</sup>、<sup>聲</sup>、<sup>夜</sup>、<sup>々</sup>、
- 青虫<sup>不</sup>、<sup>易</sup>、<sup>捕</sup>、<sup>黃</sup>、<sup>口</sup>、<sup>無</sup>、<sup>飽</sup>、<sup>期</sup>、<sup>嘴</sup>、<sup>爪</sup>、<sup>雖</sup>、<sup>欲</sup>、<sup>弊</sup>
- 心力<sup>不</sup>、<sup>知</sup>、<sup>疲</sup>、<sup>須</sup>、<sup>臾</sup>、<sup>千</sup>、<sup>往</sup>、<sup>來</sup>、<sup>猶</sup>、<sup>恐</sup>、<sup>巢</sup>、<sup>中</sup>、<sup>饑</sup>
- 辛勤<sup>三</sup>、<sup>十</sup>、<sup>日</sup>、<sup>母</sup>、<sup>瘦</sup>、<sup>漸</sup>、<sup>肥</sup>、<sup>哺</sup>、<sup>教</sup>、<sup>言</sup>、<sup>語</sup>、
- 一、<sup>副</sup>、<sup>毛</sup>、<sup>皮</sup>、<sup>一</sup>、<sup>旦</sup>、<sup>羽</sup>、<sup>翼</sup>、<sup>成</sup>、<sup>引</sup>、<sup>上</sup>、<sup>庭</sup>、<sup>上</sup>、<sup>枝</sup>、
- 舉<sup>翅</sup>、<sup>超</sup>、<sup>不</sup>、<sup>回</sup>、<sup>顧</sup>、<sup>隨</sup>、<sup>風</sup>、<sup>四</sup>、<sup>散</sup>、<sup>飛</sup>、<sup>雄</sup>、<sup>雌</sup>、<sup>空</sup>、<sup>中</sup>、<sup>鳴</sup>、

聲響ヲ呼ビ不レ歸。却入空巢。哀。周歌。終夜悲。  
 燕々爾勿悲。爾當返。自思。思爾爲。離日  
 高飛。背母時。當時父母念。今日爾應知。  
 親の慈愛、因果應報の理歴然たり。一讀再讀感慨無量。

思へることゝも

特別會員 奈夏小千代

五月十四日火曜日夕方、南園館のお庭に散歩した時の一時間ばかりの意識の流れを、一寸書いて見たいと思ひます。

思想發表の仕方には二通ある様に思はれます。一つは聴覚に訴へる方で、今一つは視覚に訴へる方でありますが、只今會報部の方から後者によつてどの事でありました。其の理由は斯うだらうと思はれます。

聴覚に訴へる方は、文明の賜物なる無線電信、無線電話、飛行機等は距離を短縮しつゝあるとは謂へ、現今未だ一般には思想發表者と、これを受取る人との接近を必要とする。然るに創立六年、卒業生を出すこと五回、在校生三百余人、文明の潮流は會員の皆様を随分遠方まで運び去りつゝある今日、皆様に、一様に母校の愛を分配し様とするには、文字によつて、視覚に

訴へるより外、只今のところ止むを得ないので、右様の如きお話があつたのであると、思ひます。  
 私は文章はどうも書けませぬが、當地にまゐりしてから、滿一年半以上、皆様の、あふるゝばかりの同情により今日あるを思ふ時、感謝の念の幾分に代へて、と思つて、生れて始めて投稿する次第で御座います。  
 前置はこれ位にして。さて、夕餉後、外に出たのは、七時少し前、南園館のお庭の堤に立つと、西南に際立つて聳いて居る山の頂上から、虹の形した白雲が五本出て居る。そして、今や、暮れんとする暗い青天井に浮んで見えるが、昨今には、一寸珍らしい空模様である。自分は地面より足が離れて、だん／＼空に向つて昇りつゝある様な感じがする。動いたと云ふ印象が網膜に與へられないのに、いつのまにか白雲が虹の形を失つて、一体に、ぼんやりと曇る、舊五日のおぼろ月眼にうつる。それが間歇的に、はつきりしたり、ぼんやりしたりする、夕方の象徴の一つである蛙類の聲、耳を刺戟する。又空とまつついの色の阿武川は自然界の限りなき深みと物語つて居る。橋本橋の電球は略の世に光線を送らんとして表はれて居る。暗くなるほど強く輝く事、俗世界が墮落する程偉人の人格が放射する一種の光線の強さを増すに似たり。周囲は時々刻々

夜の世界に突進して居る。あたりの家、草木凡ての色が黒と云ふ色に近づいて来る。全く世が暮れたならば、あの千種萬別の色が眞黒に染められてしまふのである。「夜の力は偉大なるかな」との感じが頭の真中に浮んで来た。

自分は今年に植物を教へて居るが、必要は研究心を、研究心は趣味を養成するとの理にもれず、理科を教へるけれども経験の淺い自分又は、昨今一寸散歩しても、其の方面の事に意識が集注せられ、疑問ホツ／＼趣味日に増す、草木を愛するの念趣味の度合に反應して、いち／＼しくなつて来る。

今學校の花圃には、虞美人草、一八、金盞花、石竹三色堇、福壽其他珍らしい美しい西洋花も澤山にある。得意顔に與へられた場所と時間とを占領して居る此等の花は、放課後授業に疲れてた自分を、こんなには思めて呉れるかわからぬ。今立つて居るこの足元の藤色の籬圍、白色の籬圍、はなしよう女の紫、白が夕食後、晝食後の散歩の時自分の心を消める主なる要素となつた事幾度であらう。今は小豆みた様な實をつけてとる此樓の下に立つことに依つて瞬間とは云へども、自分の心を天人の様にして呉れたのも、半月ばかり前の事である。

私共の農園には蔬菜が威勢よく生ひて居る。一間銀を手にしたのは、二月の寒い冬の眞最中であつたが、三ヶ月ばかりで見進へる程になつた。植ゑる時には同様な格好であつたが、今日となつて見ればよく育つたのもあり、余り上とは云ひかねるものもある。これを見るにつけても、先天的の遺傳の力と、後天的の手あての仕方と、兩方兼備つたものが最もよく發育するのだなと云ふ思ひが今更の様に浮んで来る。靜的の植物に於てすらかくの如し。いはんや、動的のもの、然も、人間に於てをや。と柄に似合はぬ事を考へる時、自分の心にかもし石を釣り下げて海へ投げつけられた様な感じがして、思はず腹課を覺えたと同時に自分と與へられた、仕事の尊さと感謝と責任の感がひら／＼と、奇妙な聲を出して行くので、一時、一同の的となつた山羊、小郡の農學校から戴いたのは、確か、昨年五月かと思ふが、随分小さい弱々しい瘦せたものであつたが、今日では、中々に大きく、落付きも出来た。あの二月十八日、烈しき吹雪の気温零度と云ふ時。又四月始めの、木々でも、根こぎにされはしないかと思はれた程の暴風雨にも、何の障りなく、こんなにしつかりした山羊となつたのを見る時、動的のものだけあつて、靜的のものより感ずる所深し。



只今はお籠も飼つて居るが、日に／＼大きくなつて行く、三萬と云ふ数の、小さなものが、うよ／＼桑の葉を、ひしつて居るが、今に、各は、落花生の形の真白な、又は、真黄な、巢を作つて、あの農桑準備室の棚を飾り、終りに、身を犠牲にして、我國の財産の幾分かを作る。

女は實に、この醜であらねばならぬ。子供を育てる天職をもつた女子の、大いなる責任、苦痛を思ふ時、恐怖の念全身に滿つ。併し、動的、然も人間を立派に育て上げた時の喜びや何にたごへん、の言を吐き得る経験をもつた女子の幸福や、如何に。

あたりは、しんとして、静けさの一種の聲が耳の奥底に響く。早苗月五日のおぼろ月に、夜の暗さが少しすめられて、植物界動物界植物界のもの皆一様に濃い灰色になつた。我等の視覚を休息さすべくよきなくせらる。

もし夜なかりせば如何に。熱心なる研究者には趣味の向ふにまかせて、腦の疲れも忘れ、研究を續けるであらう、よく活動すると同時に、眠る事の必要と、物は思切りをよくするものだ。と云ふ事を、沈黙のうちには物語つて居る。徹底した愛とは、これなるか、又仕事をしつゝある人には仕事の都合によつては、今少し

ばかりかさみ、収入これに伴はぬやうな場合入るを計りて出づるを制することは困難となりましたが、この時には積極的に、収入を増す方法をとり、消極的には思ひ切つて節約をなし、家長ばかりを頼みにせず家庭にふさはしき婦人の手にて出来得る副業を考へ、生計費の一助もしなくてはなりません。「我家はまた衣食には困らぬ、物價はその内に下る、とてもこのまゝ、積くものではない」なせ云ふやうな調子で安閑として居る場合ではございませぬ。副業と申せば如何にも大げさのやうでございしますが、さうではございませぬ。主婦はもはや家内にありて家政をどる大責任をもつものなれば、これに差支のない事ではなくてはなりません。このために家政をかるそかになす様なことがあつてはすみませぬ。そうするには、家庭の事情にもよります、家内に必要な野菜また果實、生花の材料は、これを家の周囲の土地をたがやし、暇なく植ゑつけおき朝な夕なに子女と共に肥料を施し手入れをなし、今日、明日はと、その成長を楽しみその作り上げて、子女と一所に取り上げるとき、また調理して食膳に上せし時の主婦の愉快さ蔭に主婦の誇りをよくむ、これはたゞに經濟の点のみならず健康上に、はた家庭の和乎上にまた趣味上に、いづれから申しても價値多きこと、存

畫ながかれ、と涙を流す程残念に思ふものもあるであらふが、時至る時は、嚴として、夜の幕を張つてしまふ。感情的な女子に必要な公平の徳を教へて居る、同時に又、夜と晝とを規則止しく交代に誤出す所に、算術科の生命とも云ふべき、「規則的に秩序整然たれ」と云ふ事を示して居る。

自然の計畫の偉大なるかな。永遠なるかな。

物價騰貴に處する覺悟 (大を)

特別會員 堀江ウツタコ

物價騰貴の昨今、其影響は、たゞちに、一家經濟上に及ぼし、巧拙は、直接責任者たる主婦の腕に表はるゝことゝなりました。主婦たるものは、大なる覺悟をもつて、これに當らなくてはなりません。若し、古人居まれば、この有様を如何に驚かす、こととございませう。

さて、一家の經濟は申すまでもございせんが、いつも、健全の状態にあらねばなりません。さうするには、生計費は先づ豫算を立て家事經濟の大原則たる入るを計りて出づるを制すると云ふ言に基きて、いたさねばなりません。併し近頃の様に物價騰貴して、支出

ヒます。

次には家鶏を飼ふこと、又養蜂、養蠶と云ふやうなことも副業として、よろしからんと存じます。これ等は、技術を要することなれば、十分にその方面の経験ある人につき、飼養法を聞き研究的に小規模に始め、これを基として廣むると云ふ風に、次第に範圍を大になす様の心掛が大切で御座います、俄に一時に大規模になして失敗せし例は少なく御座いませぬ。例へば養蜂をなすに先づ玉子より雛を孵し、これによりて次第に増すと云ふ様なこととございします。昔は女子は家中にありてかくの如きことをなすは下品のことと思つて居りましたが、現今はそんな覺悟では、とても一家を支へてゆくことは出来ませぬと存じます。現に當校に於ても昨年の落成工事の際農園も大に廣められ毎朝早くより肥料を施し土をたがやすなど、この方面にも全力をそゝいで居られます。まことに結構なこと、存じます。かくして収入の助けとし又一方には節約にどうも廢物利用に注意いたします、一物を三度に使用すとか、昔からの古言でございしますが、これには大なる經濟の意をふくんで居るやうに考へられます。かくの如く積極的にまた消極的に収益を増しこれ等得たる収益より先づ預金をのぞきて貯金となし其他を

家庭に相當の豫算の科目に分ち、この豫算によりて支出をいたさねばなりませぬ。豫算を立てたる以上は、確實に守り、主婦は毎日就床前日誌と共に家計簿に記入し、其日其日の支出を一覽して豫算と比較し、月末年末に決算いたし家長に報告し、かくしませれば決して豫算と間違ふものではございませぬ。今日の分を明日と一所に付けひなせ思ふときは、もはや豫算の効なきものでございませぬ。先月も不足、本月も不足と云ふ様なことはございませぬ。従つて家計は次第に豊かに健全なる状態を保ち、一家の幸福は求めずして來りこれに反するときは家内は暗黒に、一家の破滅もこれ等より起ることが多く御座います。主婦たるもの十分なる覺悟と、決心とをもつて當らなくてはなりませぬ。

### 本校記事 會報部

大正六年四月より  
大正七年五月に至る

#### 一、男爵高木醫學博士の來校

世はやうやく若葉に、希望に輝く大正六年四月下旬我が國體育界の權威醫學博士男爵高木兼寛氏は來校せ

愈々留意せんかな。

#### 二、大正六年の身體検査

大正六年の身體検査は五月八日より執行せられしが漸次良好なる状況を示すもの、如くなるが、今左に検査の結果を掲ぐ。

學年	検査人員		平均身長	平均體重	胸圍	骨柱	近視	遠視	齒齦	ア	體格	中等	弱弱
	梅組	菊組											
第一學年	梅組	菊組	107.5	21.5	71.5	1	1	1	1	1	1	1	1
第二學年	梅組	菊組	111.5	24.5	74.5	1	1	1	1	1	1	1	1
第三學年	梅組	菊組	115.5	27.5	77.5	1	1	1	1	1	1	1	1
補習科	梅組	菊組	119.5	30.5	80.5	1	1	1	1	1	1	1	1

### 三、縣下高等女學校校長協議會の開催

縣下高等女學校校長協議會の第一回は大正四年四月十七八日の兩日、我が校に於て開催せられしことは、南

られ、四月三十日萩町明倫館に於て、同男爵の體育上に關する講演あるよし承りしかば、午前十時我等は先生方に導かれ校門を出でつ。

明倫館に於ての博士の講演は主として國民の體格に關することにして、將來世界に發展すべき使命を有する我が國に於て、近年壯年者の死亡率及び壯丁者の身體狀況の不良者の、漸次増加する傾向あるは眞に遺憾に堪へざる次第なり。今後の青年男女は宜しくこれらの通弊に鑑みて、強健なる身體と堅固な精神とをつくることに、大に留意せざるべからざる旨を、繪畫などによりて懇篤切實に述べられたり。而して其の終に於て、來會者一同同博士の案出せられたる國民運動をなして別れぬ。

其の日の午後、男爵は出發までの時刻に多少の餘裕あればとて、數日間の疲勞にもかゝはらず、岡村部長の案内にて態々來校せられ、本校の各方面を觀覽せられしが、其の後東方の新運動場に於て、我等の爲めに再び國民運動を致へられたり。

かゝる中、御出發の時刻も迫りたれば、左様ならぬ一辭を殘して、御歸京の途に向はれぬ。嗚呼我等は同男爵の御講演並に國民運動によりて體育の更に重んずべきを益々悟りたれば、將來この方面に

團會報第三號に記載せるが如くなるが、大正六年は都濃郡立都濃高等女學校に開催せらるゝことなり、校長先生は同會議に列席すべく、五月十二日より十六日まで五日間徳山に出發せられたり。御歸校後同先生には食堂に於て、同會議の情況に就き詳かに御話ありしが、いづれも我等生徒の爲めの御協議のさまに承はりて、感謝の念起こりぬ。

#### 四、本年の養蠶

我が校の養蠶は益々發展の機運に向ひ、本永安野兩先生の熱心なる指導と、生徒の技術年と共に熟達せるとにより、驚くべき良成績を得たり。

大正六年の蠶種は、日歐交配種一匁、日支交配種一匁を飼育することとなり、蠶種は特に山口縣原種蠶製造所より無代配布を受けたるものなり。五月十五日播立にて六月二十六日收購す、其間に於て蠶量の半分は蠶兒發育標本として、ホルマリン液に浸せり。而して期恰も天候不順なる梅雨にさしかゝりしにも係らず、收購量五貫八十匁にて、内玉繭四百五十匁あり。例年の如く製絲實習材料として今尙保管されつゝあり。

### 五、補習科修了生の 無試験檢定

本校補習科修了生は小學校裁縫專科正教員無試験檢定を出願し得る特典を與へられ居りしを以て、大正六年も同修了生の方は同無試験檢定を出願し、山口縣立病院の身體検査を受くる爲め、五月十九日午前五時半學校より特に指定せられたる入夫と共に、徒歩にて校門を出發せられしと承る。二十二日夕刻には夫れ、無事に歸校せられしが、皆元氣よく長途を徒歩せられしけはひもなく、いどかひなく二十日の縣立病院の身體検査も滞りなく結了せしこと、又道中のさまざま物語り居られたり。其の後たび山口町に行かれし方は盡く小學校專科正教員の免許状を受けられしと承りぬ。

### 六、海軍記念日と講話

大正六年の海軍記念日は日曜に當りしを以て、特に其講話は五月二十六日に承ることとなり、二十七日は各自家庭に於て、其當時をしのぶこととなりぬ。この日午前十時、生徒一同は講堂に集りしが、先づ校長先生より日本海々戦は國民の必ず記念せざるべからざることを、活潑に論議せられたりといふ。

### 八、縣下中等學校長 會議の開催

本縣中等學校長會議、山口に於て開催せられ、校長先生は六月二十七日より七月二日まで、一週間出張せられたり。御歸校後食堂に於ての校長先生の講話によれば、最も意義ある有益なる會議なりし由にて、特に我が校より提出せられし「生徒をして困苦缺乏に堪ふる習慣を養成する良法」云々の協議題は最も有効痛切なるものとして、活潑に論議せられたりといふ。

### 九、至厚院故久原文子 刀自一周忌追悼會

我が校創立に關し、一方ならざる援助を與へられし故久原文子刀自は大正五年七月十三日、滋蔭白玉樓中の人となり、大正六年七月十三日は一周忌に相當せるを以て、午前十一時より本校講堂に於て、至厚院故久原文子刀自の追悼會を舉行せり。講堂の前面左側に壇を設け、刀自の寫眞を安置し、香華を手向けぬ。先づ開會の旨を述べ、其の後校長先生の禮拜あり。次に職員生徒の禮拜をなす。夫れより校長先生は刀自の高徳に關し、一場の訓話をせられて、一同に深き感動を與

らざることを、日本海々戦の大要なせ御話ありて、當時の情況を回想せしめて、一同に深き感動を與へられ、其の後當地河添在住にして最近歸郷せられたる海軍機關少佐清須勝助氏は、海軍組織の大要より説き起さされ、轉じて從軍中の感想、特に軍國婦人としての覺悟等に就き、約一時間に亘りて有益なる講話ありしかば、我等は時の移るをも忘れて、いよ／＼感を深うするのみなりき。其後一同東方に向ひて進拜し、大日本帝國海軍萬歳の三唱の後閉會せり。

### 七、江部文部省視學 委員の視察

縣下中等學校の修身教授視察のため、來縣せられし文部省視學委員第五高等學校教授江部淳夫氏は六月二十六日午前十時四十分、西原縣視學岡村郡長桂木郡視學と共に來校せられぬ。先づ校長室にて學校狀況の大要聴取の後、同十一時第三學年梅組の校長先生の修身教授を約一時間視察せられ、夫れより南園館にて、生徒の手になれる畫版を覽しぬ。かくて午後一時登の自動車にて、江部視學委員西原縣視學は山口へ向つて出發せられたり。

### 一〇、林知事の視察

八月三十一日林知事は來縣せられしが、越えて九月一日午前十時二十分岡村本郡長の案内にて、本校視察の爲に來校せられぬ。先づ我等は先生方と共に門内に整列して謹んで迎へたりしが、直に南園館に入られ、暫時御休憩の後、講堂に於て生徒一同に對し、約一時に亘りて懇篤なる御訓辭あり。要は我が國社會組織の特徵は、家を重んずるにあり。諸子はやがて人の妻となりて家を齊へ、子女を養育する天職を有するものなれば、在學中は修養に志し、學藝にいそしみ、以て將來貞淑にして有用なる一家の主婦たらんことを心がくべし。而して家を齊ふるには種々の辛苦に遭遇することもあるべし。此際に於ては常に家の爲めてふことを思ひて努力すべし、といふにてありき。其の興味ある實例をあげていと熱心に説き示されれば、一同多大の感動にうたれたりき。其の後校長室にて學校施設の概要を聴取られ、三學年の薙刀体操其の他學校の狀況を視察せられし後、

午前十一時四十分萩中學校に向つて出發せられたり。

### 十一、福原男爵の來校

九月二十五日午前十一時、男爵福原俊九氏は中野先生の案内のもとに、岩田萩中學校長と共に來校せられたり。

先づ校長室にて中野先生より、學校の教育方針並に施設の状況を説明せられしが、一々うなづかれ、さて後教授の有様を見んとて、各教室を巡視せられ、夫れより南園館に於て暫く御休憩あり、こゝにて御殿の由緒なども聞かれては、いと堪へがたき感に打たれさせたるやう見受けられぬ。正午前歸宿せられしが、先生は御旅館まで見送られしやう承りぬ。

またの日中野先生は旅館に見送りし時、特に和歌を戴きしとて、左の國風を朗吟せられ、なほ敷島の道に造詣深くましますことども話されき。

多々羅郎にて

風かほり木の香もかゝる新館

去年の行幸の物語さく

遠望帆

眺めゆる多々羅山崎強くふかは

華の浦曲の白帆みられむ

### 一二、開校記念會並に

#### 菊花會

菊花東籬に笑ひ十一月三日午前八時より、我校に於ては開校記念會を、秋の日のきら／＼しき運校園に開催せられぬ。先づ中野先生舉式を宣し、ついで君が代合唱、夫れより校長先生は生徒一同に對し、懇篤なる御訓辭ありて閉會。かくて例年の通り菊花會を開催せしが、校内清香馥郁として鼻を撲ち、生花盆裁などの見事なるは更なり、三年生のものせられし菊人形は誠に於て珍らしとてわれもくゞと來觀し、午後には於ては最も雜沓を極め、卒業生の方々も多く來觀せられぬ。

### 一四、第七十一聯隊

#### 演習參觀

十一月四日、第七十一聯隊當地に行軍し演習を催す由聞ひしかば、我等は先生方と共にこれを迎へん爲め、同日午前十一時學校を出發す。括袴に草履のいでたち甲斐々々しく、兼て郡及町村の御厚意によりて定められたる位置なる椿西尋常高等小學校にいたれり。折しも大雨沛然として降り來りしに、數多の將卒の方々は桶風沐雨いと勇ましげにいで來たられ、午後一時五十

### 綠蔭蒸茶

國分寺の松の落葉をかきあつめ

木の芽しにればいにしへねもほゆ

萬原ぬしの母君のみまかりしをいたみて

撫子の花さき出し眞高原

うらがなしくも秋の風ふく

女學校を視て

あたゝかき南の園の露うけて

を、しく咲けよ大和撫子

### 一二、本縣知事より賞狀

#### 及び木杯下附

九月二十八日午前九時、校長先生は本郡役所に行かれ、林本縣知事より下附せられたる賞狀及び木杯を受領せられたり。こは我が校在學生にして俄に其の家庭の悲酸の境遇に陥り半途退學せざるべからざるものを教はんとして、我が校各職員の方々のあつさおぼしめしにて、それ／＼金員を醸出して慈善奨學資金とつくりられしが、さき／＼年之を悉く本郡に寄附せられたまひし清きいさをしを表彰せられしを校長先生代表者として受けられしなりと後にも承りぬ。

分頃より演習は酣となり、大砲小筒の轟、機關銃の音、天地も爲に震動し、歩兵騎兵の馳驅する様、實に壯絶ながき。我等は眼のあたりこれを見て、實戦のさまもかくやあらんと思ひやり、いたう壯快の感を起しぬ。尚椿村なる岸中佐來たられ、本日演習の方略につき、詳細に説明せられたれば、參觀に大なる利益と趣味を得たりき。

同三時頃、金谷社前に整列して萩町に入り來たる軍隊を迎へ、同四時校長先生より御話を承りて解散せり。

### 一五、校外教授の一日

四方の山々は龍田姫の錦を織り出し、郊外の散策に最も適せる十一月十日、我が校にては待ちに待ちたる校外教授を催さる。

主なる目的地は羽賀臺及び水力電氣參觀と定められしが、我等は括袴の盛装にて午前八時校門を出發し、松本にいたり、伊藤公の舊宅並に松陰先生誕生地、玉木翁の舊宅を觀たりしが、校長先生は懇に其のかみのごときを委しく訓へられしかば、我等は三大偉人の風格を景仰し、懐古の情堪へせぬものありき。かくて東光寺前にて椿東村出身の方々と出會ひ、門前にて

憩し、校長先生より同寺の由來禪宗に三派あることなきを承る。夫れより松本峠を経て羽賀臺に登る。道いよいよなまりて登るに甚だたよりよし。鞍懸橋にありし昔をしのび、秋草の中に野花點々たる風趣を賞しつゝ、正午近き頃臺上にいたる。ここには天保開兵之地と記されたる大なる碑あり。蒼茫たる日本海は眼下にひろげられ、六島は指呼の間に點在し、其の風光げに繪にかくとも筆も及びがたし。少憩海山の景色をながめつゝ、晝食を喫し、其の後校長先生は天保開兵の由來より本年記念碑建設のことなど、いとつばらに説き示されしかば、いと深き感にうたれぬ。また安野先生は附近の地理につき、懇に話されたれば、裨益する所尠からざりき。

先生の歌に、

四さかひのわがからごきは羽賀の狩

やさけびの音のこだまなりけり

また友垣の句に、

ありし世を語りがはなり

羽賀の秋

午後一時こゝを發し、大井川の發電所に向ふ、深山の秋も、今や闌にして千山萬壑錦繡を織り出し、時々滔々たる瀑布を木の間に見るなど、途上の風景忘れ難

る、體操の規律正しき、薙刀體操の勇しき、どゞゞゞ観者をして喝采せしめぬ。かくて午後四時三十分閉會式は舉行せられしが、桂木郡視學は本日の演習會の成績は、甚だ良好なりきとて祝辭を述べられ、校長先生は本日の成績に就きての概評、並に益々奮勵すべきやう説き示されて、和氣瀟然たる裡に終を告げぬ。左に當日の演技番組を掲ぐ。

第二回體育演習會演技番組

- |    |     |             |
|----|-----|-------------|
| 願番 | 學年  | 運動          |
| 一  | 全體  | 開會式         |
| 二  | 一ノ菊 | 體力競走        |
| 三  | 一ノ梅 | 全           |
| 四  | 二ノ菊 | 棍棒體操        |
| 五  | 二ノ梅 | 月拾ひ         |
| 六  | 補習科 | 輪投げ         |
| 七  | 三ノ梅 | 乾物競争        |
| 八  | 一ノ菊 | 圓舞、スプリングダンス |
| 九  | 一ノ梅 | 繩飛び         |
| 一〇 | 二ノ菊 | 體力競走        |
| 一一 | 二ノ梅 | 全           |
| 一二 | 一ノ菊 | お給仕         |

し。かくて午後三時頃發電所にいたり、こゝにて大體の説明を聞き、水力の人世に利用せらるゝことの大偉なるを感じたり。管内を一巡して仔細に其の狀況を視、歸途に就きぬ。

此の日、昨今の天氣としてはよかりし方にて、往復の道程短かりしにはあらざりしが、一同の元氣、甚だ旺盛にして、格別の異狀もなく無事に歸るを得たるは誠に幸とする所にして、修養上裨益する所頗る大なるものありき。

一六、第二回體育演習會開催

空高うして氣澄み、楓葉霜にわいて二月の花よりも紅なり。我が校に於ては此の好時期を利用して、十一月二十一日廣潤なる新運動場にての最初の體育演習會は催されぬ。

此の日、曉天模糊としてまだ明けやらぬに、轟然たる一發の煙火は打揚げられたり。夙起匆匆登校すれば、秋空蒼々として續雲無く、既に友垣數名登校せられたるを見る。

午前九時開會せられ、君が代合唱の後、校長先生は徐に開會の辭を述べられ、夫れより直に各種の演技は開始せられたり。演技の壯快なる、舞踏遊戯の優雅な

- |    |      |                |
|----|------|----------------|
| 一三 | 二ノ梅  | 圓舞キャブテンダンス     |
| 一四 | 三ノ菊  | 體力競走           |
| 一五 | 三ノ梅  | 全              |
| 一六 | 二ノ菊  | 飛び繩            |
| 一七 | 一ノ梅  | 圓舞ノーマルサークル     |
| 一八 | 補習科  | 體力競走           |
| 一九 | 二ノ梅  | 體操             |
| 二〇 | 三ノ菊  | お料理            |
| 二一 | 三ノ梅  | 薙刀體操           |
| 二二 | 各級選手 | リレー競走          |
| 二三 | 一ノ菊  | 輪投げ            |
| 二四 | 一ノ梅  | お給仕            |
| 二五 | 二ノ全  | ダブルダットボール      |
| 二六 | 三ノ菊  | 貝拾ひ            |
| 二七 | 三ノ梅  | 體操             |
| 二八 | 補習科  | つるし柿           |
| 二九 | 一全   | メダソンボール        |
| 三〇 | 二ノ菊  | お手玉            |
| 三一 | 二ノ梅  | 棍棒體操           |
| 三二 | 三ノ全  | センダーボール        |
| 三三 | 補習科  | 遊戯學校桃太郎ノーマルダンス |
| 三四 | 三ノ梅  | 貝拾ひ            |

- 三五 二ノ梅 月拾ひ
  - 三六 二ノ梅 飛び廻
  - 三七 三ノ梅 乾物競争
  - 三八 二ノ梅 對舞ノ一マルダンス
  - 三九 補習科 人形送り
  - 四〇 一ノ菊 綱飛び
  - 四一 二ノ菊 遊戯体操
  - 四二 一ノ梅 輪投げ
  - 四三 二ノ梅 お手玉
  - 四四 三ノ菊 体操 複式教程
  - 四五 三ノ梅 お料理
  - 四六 他校女生徒 球持ち
  - 四七 同窓會員 籠 毬
  - 四八 補習科 武甲流 薙刀型
  - 四九 職員 汐千狩
  - 五〇 來賓 福拾ひ
  - 五一 各級選手 ランナー競走
  - 五二 全体 聯合体操
  - 五三 全体 閉會式
- 以上

一七、皇太子殿下御眞影  
拜戴式舉行

我校は曩に長くも 兩陛下の御眞影を拜戴せしが、十二月二十七日 皇太子殿下の御眞影を拜戴せしことを洵にかしこきはきみにこそ。

其の日午後四時頃、校長先生中野先生は 御眞影奉迎のため先づ橋本までお越しになり、補習科第三學年の方には本末先生藤野先生に引率せられ、郡役所まで奉迎に行かれぬ。御眞影は郡會議事堂にて拜受せられ、夫れより校長先生は人力車上に恭しく捧持せられ、縣廳より護衛せる警官前衛となし、岡村郡長桂木郡視學の車、校長先生の車につかれ、生徒の方々は先生に引率せられて、肅々としてまたこれに續かれたり。第二學年以下は他の先生方と共に門前に整列して、謹んで奉迎しぬ。午後五時三十分より左の順序にて、拜戴式はいと嚴肅の裡に舉行せられたり。

- 一、擧式ヲ告ク
- 二、開 扉
- 三、君カ代合唱
- 四、學校長式辭
- 五、拜 賀

- 六、閉 扉
- 七、閉式ヲ告ク

一八、第二回薙刀仕合型  
寒稽古開催

朔風颯々として空林に咽び、六花繽紛として寒氣靡を劈く大正七年一月十五日より前後十五日間、我等の身體鍛錬・意志修練の爲め、薙刀仕合型寒稽古は毎朝早天より本末先生指導のもとに行はれたり。我等はこれによりて武甲流仕合型を知り得しのみならず、其の精神身體に裨益せしこと如何ばかりなりけん。かくて二月十三日講堂に於て、補助者に対する衰狀授與式ありき。

一九、擴張工事落成式及び開  
校五周年記念式舉行

我が校は久原家のいとも深き御厚意と、大方のたいなる御援助とにより、明治四十五年四月創立せしものなることは常に先生方より承ることなるが、爾來校運いやせしに榮白南の園の教壇つまばやど入り來たるもの、やうやく多きを加へ、卒業の方を出すこと三百三十七名亦盛なりといはまし。かくて先づ、八が

子夫人は故久原文子刀自の遺志をつがれ、我が校擴張費並に慈善獎學資金等として、金貳萬圓を寄附せられしは我が校の發展の爲め、且つは我が郡女子教育の爲め、眞に慶賀すべきことにしてありがたき極みにこそ。

かくて我が校はこれによりて、作法教室刺烹教室新築の工事は起こされ、廣濶なる新運動園は東方に設られ、農園は大に擴張せらるゝことゝはなれり。大正七年一月工事漸く竣り、宏壯瀟洒にして設備と、のひたる作法教室刺烹教室を食堂の側方に見るにいたりぬ。加之我が校は創立以來、年を閲すること正に六。學校の學年より數ふれば、滿五ヶ年に當れるを以て、大正七年一月二十五日擴張工事落成式及び開校五周年記念式は舉行せられぬ。

此の日、朝來飛雪紛々、白皚々たる銀世界を現出し、清淨無垢高潔崇高なる光景は質實瀟洒なる新築作法刺烹教室とに相映照して、我等品性修養上に或種の暗示を與ふるもの、如く印象最も深きものありしなり。

此の降雪を冒して、早くより來賓能美少將以下藤町在郷將校の方、澁口郡會議長以下各郡會議員の方、中場判事、内田町長、和田稅務署長、奥山警察署長其他

官公衛職員名譽職の方、岩田中學校長以下附近各學校長の方、有志一般の方、新聞記者の方約百五十餘名來校せられぬ。

午前九時振鈴、式は始められ、一同着席の後、中野先生は學式を告げられ、唱歌君が代について勅語奉讀並に勅語奉答の唱歌あり。桂木郡視學の工事經過報告、岡村郡長の落成式辞、校長先生の記念式辞、瀧口郡會議長の祝辞、附近町村長代表者内出町長の祝辞、卒業生總代山本雪子氏の祝辞、これについて在校生徒總代都築雪子氏の答辭ありて、式典はいと靜肅嚴正の裡に午前十時半終りを告げ、其の後生徒の學藝會をなし、來賓の方々の觀覽を請へり、其の順序並に題目等左の如し。

- 一、開校の辭 校長先生
- 二、習字 卷紙 補習科 都築ユキコ 藏貫ツル  
松本八重子 瀧口澄江  
色紙 全 新庄貞子  
短冊 全 白井チガ  
葉書形全 倉増太代 山根茂子  
小野サキ  
半紙 三年 林 文 吉崎綾子  
唐紙 二年 大賀ヒデ 竹内淑子

六、武甲流仕合型 薙刀と木劍との仕合

- 補習科 齋藤雪枝 吉岡ハル子
- 薙刀と薙刀との仕合 全 石川ハルコ 田中清子  
薙刀要の技 三年生 堀上ヨシ 今田ナヲコ  
志、閉會の辭 校長先生

以上は勿々の間に仕組まれたるものなりしが、何れも其の出來榮甚だ良好にして、一般の喝采を博し感動を興ふること深かりき。

夫れより我等は戶外に出で、霏々と降りしきる雪中にて、聯合體操をなしたる時の壯快さ、げに筆にも盡しがたきものありけり。特に來賓の方には奨勵のためにとてわざと、戶外に出で、來觀せられしは眞に感謝に堪へざりし所なり。

尙當日は本館の階上階下其の外各所に、我等の作文、和歌、習字、家事、歴史表、地圖、圖書、裁縫、手藝、生花等の成績品を陳列せられたれば、或は瀟洒に、或は濃艶に、一般に大なる裨益を興へ、深き感興を添へしこと尠からざりきとは、來觀せられし方の口より發せられし自然の聲なりき。

あはれ我が校は久原家の再度の大なる御芳志と、當局又有志の方々の一方ならざる御盡力と、先生方のあ

- 全 一年 田村マサ 桂 ッチ
- 三、裁縫 子クタイ補習科石川ハルコ 齋藤ミツ
- 四、手藝 (造花) 二年 津田サダ子 井山壽子  
(バラの簪)
- 五、修身 理想の淑女 補習科 厚東フミ 柴田キク
- 六、國語 朗讀 田舎の生活 一年 岸 緑
- 七、歴史 日本と支那との國體について 二年 兼重安子
- 八、物理 磁石の實驗 二年 林 貞子 倉田喜久代
- 九、唱歌 南の園 生徒全體
- 十、生花 梅 補習科 倉富イナ 池田京子  
三年 早川昭子 扇智世子
- 二、家事 小包の仕方 三年 渡邊幸代 中山壽子
- 三、農業 養蠶の話 二年 瀧口和子
- 三、談話 孝女津枝 三年 堀上ヨシ
- 四、數學 (數學的) 三年 山田マサ子 今田ナヲ子  
遊戯 全 大谷文子 吉村糸妣  
全 香川マサ

五、教育 教育と母の任務 補習科 松本靜子

つきみ恵みによりて校地校舎は擴張せられ、開校五周年の上るこびを得るにいたれり。いでやこれを一新記元として、愈いそしみはげみて、品性の修養に、學藝の習熟に、身體の健康に、一層向上進歩を期し、貞淑温良にして、勤儉力行の婦人となりて、此等の方々の御厚志に酬いんかな。茲に謹んで久原家の至大なる御厚意と當局並に大方の御盡力とに對し滿腔の敬意を表す。

二〇、我が校の擴張

我が校は久原清子刀自の至大なる御厚意により、又當局の方並に有志の方の御盡力により、擴張せられたることは、前述の如くなるが、今左に其の概観を記して、また見たまはぬ方の参考に供せん。

一、實習館 (作法、刺烹教室) 食堂に隣し以前の運動園の所に建築せられ、宏壯瀟洒此の種の建物として實に縣下に稀なる稱あり。作法教室は二間にして、客間は十八疊、次の間は十五間、高雅なる床の間、洋式の應接間、玄關等附屬せり。南側に山岳を背景として、温雅閑靜なる庭園あり。刺烹教室は縦七間横七間にして、一方を板敷とし一方を土間とし、七個の刺烹臺を据え、生徒をして各自割烹するに便せり。其の

施設の完備せる多く頷例を見ざる所なり。

二、運動園 本館の東方、以前葦々たる夏蜜柑畑ありし所に新設せられ坪數九百坪、甚だ廣闊にして、大正六年十一月の體育演習會の開催せられし時も、多く來觀者を容れて、尙優に運動することを得たりき。

三、農園 實習館の前方にありて約二段、職員農園あり、各學年生徒の共同園あり、第二學年以上の生徒の個人園(一人につき凡一坪)あり。青々たる春白菜甘藍は豪雨にて一入其の色を増し、其の外花椰菜馬鈴薯、里芋、佛掌薯、茄子、胡瓜、大角豆、菜豆等盛に成育しつゝあり。

四、寄宿舎 さきに入室なりしが、入舎生の數を増し、狹隘を告ぐるに至りしかば、新に杉の舎廻廊の舎の二室を加へ、別に質實堅牢なる舎監室一棟は新築せられたり。

我が校の擴張は大略右の如くなるが、南園館は修理せられ、其の通路は別に設けられ、入口には宏大なる門扉建設せられたり。

我が校創立當時以來、大に盡力せられたる我が南園會名譽會員瀧口吉真氏は、曩に寄宿舎の爲めに、松林桂月畫伯の揮毫にかゝる畫幅八個を寄贈せられしが、寄宿舎擴張の爲めに、杉、躑躅の二室増加せるを以て、

### 二二二、製絲實習

昨年我等の飼育せし春蠶の繭を以て、製絲の練習會を三月四日より十日間、本校に開きしが、講師として本郡技手福谷朝太郎氏特に來校せられ、熱心指導の任にあたられしを以て、我等は有益なる智識と、技能とを得るに至りしは誠に感謝に堪へざる所なり。

左に其の結果を掲ぐ。

生絲 三百四十五匁  
真綿 三 十 匁

### 二二三、山川總長の來校

東京帝國大學總長山川健次氏は九州明治專門學校卒業式臨席出張の歸途、兼て知遇を受けられしとかにて、故前原一誠、故奥平謙福兩氏の墓參の爲め來校せられしが、三月八日午後三時三十分我が校にも來られたり。先づ校長室にて校長先生より説明せられたる學校の概況を傾聴せられ、これより教授の模範、薙刀仕合型などより學校施設の狀況を視られ、午後五時出立せられたり。

### 二二四、陸軍記念日と講話

三月十日は奉天會戰の大捷のありし日なるを以て我

我等の修養を全からしめんとて、今般更に同畫伯の手になれる杉、躑躅の二幅を寄贈せられぬ。又瀧口氏と共に種々斡旋せられたる我が南園會名譽會員増山宗史氏は、擴張工事成祝記念として、同氏庭園實生の松樹を寄贈せらる、我等は謹んで其の御好意を謝す。

### 二二二、第六回保證人會開催

三月一日午後一時より、第二學年第一學年生徒の保證人會、同月二日には補習科第三學年生徒の保證人會を開かれしが、兩日とも保證人の方々は我等受業の有様より校内施設の狀況など、いと熱心に觀られき。其の後學藝會は開かれしが、各科の學藝いづれも一方ならず、保證人の方々の感興を起し、中には學藝の上達したるに稱讚の聲さへもられし方もありしと云。それより校長先生の我が校教育方針より學生と家庭との連絡の必要に就き、いと熱心に話されしが、よく我が校のことにつき了得せらしやうに承る。級監の先生との打ち合せには保證人の方のうちくつろがれたる御話も出で、教育上亦相互に裨益する所多かりし由なり。

尙本日は我等の成績品を陳列して、保證人の方の參考に供へられたり。

が校にては記念會を催しぬ。

先づ校長先生は奉天會戰は有史以來の大戦なるを以て國民はよろしくこの記念日を記憶して、益々奉公の赤誠を盡くすべきことを誨告せられて開校の辭とせられ、ついで中野先生は莊重なる音調を以て日露戰史を朗讀せられて一般にその概念を與へられ、其の後河村先生は此の記念日に就て、吾人の記憶を新にするの意味に於て、日露戰役に於ける出征軍人の、遂に敵國をして屈服せしむるに至りし原因、國民の覺悟及び帝國の世界に於ける立場より、國の爲め犠牲的精神の發揮に努力すべき責任あることを説明せられ、終りに戦死者の英靈及び其の遺族に對しては、敬意を捧げ同情すべきことを附説せられて大なる感動と智識とを與へられ、其の後樺村陸軍砲兵中佐岸彌七氏は登壇、奉天會戰に於ける彼我兩軍の戰況及び其行動に就て詳細に述べられ、轉じて戦捷の原因をなせしは我が戰略の意表に出でたるを説明せられ、尙此の會戰に於ける逸話等を最も平易懇切に述べられしを以て、我等は愉快の裡に深き印象と、大なる裨益とを得たり、かくて校長先生は閉會の辭を述べられて會は終りぬ。

### 二二五中川知事の視察



中川本縣知事は三月十三日始めて御來萩ありたるが、翌十四日は警察署及び郡役所を巡視せられ、夫れより岡村郡長の案内のもとに、午前十時四十分來校せられしかば、我等は整列して謹んで迎へまつりぬ。これより先、郡より通達ありたる爲め、本日の知事の訓示を聴かばやとて、朝來郡内町村長學校長附近の官公吏、其他郡内縣會議員郡會議員有志等百五十餘名來校ありたるが、中川知事は之に對し、約一時間に亘りて、共同一致して國力の發展に盡瘁して奉公の實を擧ぐべきこと、時局に對する準備を怠るべからざることを等に就き、最も有益なる訓示をせられし由承る。夫れより我が校教育施設の状況、薙刀體操、製絲實習等を視察せられ、午後零時二十分より約二十分餘、食堂に於て全校生徒一同に對し、本校は教育上絶好の地にあり、見るもの聞くもの、悉く教育上の好資料なり、諸子は大に奮勵して能をこれにとり、善良有爲の婦人とならざるべからず。眞妻賢母たるには道徳上智識上體育上、各々修養を要する旨を懇篤熱誠に訓誡せられしかば、我等の感激甚だ大に、深き印象を得たりき。かくて新作法教室にて、我等の劇烹せし晝食を喫せられ、午後一時三十分萩中學校に向つて出發せられたり。

二六、郡内小學校長の來觀

本郡内小學校長會議は三月中旬、本郡會議事堂に開かれたる由、聞きたる我等は其の御來校の日を待ちたりしが、例年の通り同月十五日來校せられしを嬉しけれ。

母校の校長先生方は午後一時頃續々御來校になり。桂木郡視學郡學務課の方萩町立商業學校高村茂太郎氏も來校せられたり。かくて午後一時四十分より、講堂に於て學藝會を催して御批評を請ひしに、いづれも成績よかりしとは、多くの母校の先生方の口より發せられし言葉なりき、其の後我等は出身學校別に分れ、久しぶりに母校の校長先生の御話を承り、一種の感にうたれしが、先生方はくりかへしく、勉強せよといはれき。夫れより新作法教室にて母校の先生方と、本校の先生方との間に、教育上有益の打合せありけりとは、後に承りしことなりき。

二七、第六回卒業證書授與式及び第五回修了證書授與式舉行

三月二十日第六回卒業證書授與式及び第五回修了證書授與式舉行せられ、本縣よりは知事代理として今村

二八、先生の轉任と退職

井上マツヨ先生は大正五年八月三十一日附の辭令にて就任せられ、爾來殆ど一ヶ年裁縫手藝を受持たれしに飯田家に嫁がれ、家事上の都合にて大正六年六月十九日附を以て退職せらる。

沼田恒先生は大正四年十月六日附の辭令にて就任せられ、其の後二ヶ年間作法理科及び家事ローマ字綴等を受持たれしに北川家に嫁がれ、大正六年十月二日附を以て大阪府に出向を命せられ、大阪府北河内郡立河北高等女學校教諭に轉任せらる。

齋藤タカ先生は大正二年五月二十一日附の辭令にて就任せられ、爾後四ヶ年半裁縫を受持たれしに大谷家に嫁がれ、家事上の都合にて大正六年十月二十九日附を以て退職せらる。

田中タカ先生は大正三年四月九日附の辭令にて就任せられ、爾來四ヶ年間作法習字圖書唱歌を受持たれしが大正七年三月十三日附を以て大阪府に出向を命せられ、大阪府東區私立桃園幼稚園主事に轉任せらる。

田村繁先生は大正五年三月三十一日附の辭令にて就任せられ、爾後二ヶ年間裁縫手藝を受持たれしが大正七年三月二十八日日本校教諭心得を命せられ、家事上

理事官臨場せられぬ。

午前十時より式は始まり、唱歌君が代勅語奉讀勅語奉答、證書並に賞品授與、學校長訓辭長官告辭、郡長告辭、瀧口郡會議長祝辭、保證人卒業生祝辭、生徒總代祝辭、卒業生修了生總代答辭、保證人唱歌送別感謝等相繼いで行はれて閉式。

今回の卒業生修了生數並に受賞者數は左の如し。

卒業生	八十一人
修了生	二十七人
受賞者	
一、特別表彰を受けしもの	二人
二、表彰を受けしもの	
操行善良者	三人
學業成績特別優長者	十三人
學業成績良好者	二十人
三年間皆勤勉勵者	五人
一年間皆勤勉勵者	三十一人
級長	七人
副級長	十三人

式後小學校會を開催し、又成績品展覽會を開けり。尙同日今村理事官は特に「怒るな働け」てふ名言により懇なる訓話をせられぬ。

の都合にて同日退職せらる。

以上の先生はいづれも我等の爲めにいと熱心懇切に教授せられ、我等の將來を慮りては涙を以て教諭されしことも幾度ぞ。今やこの學校にいまさねど、温容を回想すれば勇気として眼前にありて敬慕の念油然として起り來たるを覺ゆ。嗚呼我等は諸先生の教へ給ひし御言を忘れず、躬行實踐以て御恩の萬分の一に報いまつらんかな。諸先生希くは加餐せられ、時々芳信を賜らんことを。

### 二九、本學年の開始

大正七年四月四日我が校開校以來、第七回の學年は開始せられぬ。

此の日前七時頃より、新入生は父兄又は保證人の方々に伴はれて續々登校せられ、同八時半より入學式は舉行せらる。唱歌君が代勅語奉答の後、校長先生は我が校の教育方針生徒心得、保證人の方々に望まるところなど懇に話され、中野先生は學規並に生徒心得を朗讀せられて、其の大意を徹底するやうに説き示され、ついで父兄保證人總代として國弘大佐の鄭重なる御挨拶あり、其の後生徒總代迎辭、新入生徒答辭ありて式は閉ぢられぬ。

すく、いろしきはげみて、先生の御教を守らんかな。

池上岩太郎先生大正六年五月二十四日附の辭令にて就任せられ、歴史地理圖書教育を受持たる。

堀江ウツコ先生は大正六年七月十七日附の辭令にて就任せられ、家事手藝を受持たれ、目下舍監たり。

八木こさみ先生は大正六年十一月五日附の辭令にて就任せられ、裁縫手藝ローマ字綴を受持たる。

田村ウメ先生は大正六年十一月十二日附の辭令にて就任せられ、裁縫手藝を受持たる。

安永スエ先生は大正七年四月五日附の辭令にて就任せられ、作法習字唱歌を受持たれ、目下舍監たり。

### 三一、兒玉陸軍中將の來校

四月二十二日三浦觀樹將軍岡十郎氏と共に、御來校なりし兒玉陸軍中將は同月二十五日午後一時、岡村郡長中野先生の案内にて來校せられぬ。

先づ小憩せられし後、午後一時二十分より講堂に於て軍人後援會のことより説き起こされ、軍國の主婦の心骨、忠孝の念の我國に特に必要なる所以など、いと懇に、諄々として説き去り、説き來りたまふこと約一時間、我等はこの有益なる御話により、腦中或ものを得たる感起こりぬ。講話を終はれし後、我等の列中

### 學科受持及び級監各學級人數

一、學科受持(括弧内は科外)		學科		受持先生	
修身	校長先生	裁縫(生花茶儀按摩)	世良先生		
國語	中野先生	作法習字唱歌	安永先生		
體操園藝	本永先生	裁縫手藝(ローマ字綴)	八木先生		
歴史地理圖書教育	藤野先生	裁縫手藝	田村先生		
池上先生		生花茶儀	上利先生		
數學理科	奈良先生	箏曲(寄宿舎生に限る)	城清先生		
家事手藝	堀江先生				
國語園藝	安野先生				
二、級監各學級人數		學級	人數	級監	
學級	人數	級監			
補習科	一三	八木先生	二年梅	五八	田村先生
三年梅	四七	堀江先生	二年菊	四九	安永先生
三年菊	四七	藤野先生	一年梅	五〇	世良先生
			一年菊	五〇	奈良先生

### 三〇、先生の就任

昨年五月以來就任せられたる先生は左の如くなるが、いづれも熱心懇切に我等を教へ導かる。我等はま

を巡視せられ、體格の強健にして、血色のよろしきこと、質素にして實着なることを視て、喜色滿面賞の辭をもらされぬ、其後校内を一巡し、南園館に於て抹茶を喫し、午後二時五十分愉快げに出發せられたり。

### 三二、毛利公爵の來校

新緑漸く濃かなる四月廿七日午後一時毛利公爵には令夫人其の外、隨行の方七人と共に來校せられぬ。我等は先生と共に新門外に整列して、謹んで迎へまつる。一行の方は新門より直に南園館に入られ、南園會よりたてまつれる茶菓を召させ小憩せらる。

我等は講堂に入り、尊容に接せばやと待ち居るうち公爵は令夫人其外隨行の方々と共に、やと入り來られ、我等に對面せらる。實に厚き御恩の身に浸むるを覺ゆ。其後控所に於て補習科生徒の薙刀仕合型及び南園の唱歌を御覽あそばされ、午後二時頃一同の見送りのもとに出發せられたり。

### 三三、校外教授の一日

春深くして老當聲漸く稀に、野花掃蕪として美を聞はし妍と争ふ六月二日、我が校は春季の校外教授を催されぬ。午前八時學校を出發し、椿村嶽の觀音堂の右側より

攀ぢ登り、小暗き雜木林の中をくゞり谷間がくれの霧の聲に日頃の憂さを忘れ、漸くにして頂上に達す。此處にて校長先生より、附近の地理歴史に關し、委しき御話を承りぬ。晩春の日和、うらゝかにして空に片雲もなく、海山の眺めいとよし。十分ばかり猿狩りをなし、夫れより南方なる六甲山に登攀せんとて、歩を山徑にうつす。六甲山は海拔一千百六十尺ばかりの高山にして、朝な夕な學校より眺めては登らばやどかもひし所なり一同勇を鼓してあへぎながら、峻峻なる坂路をたどり猿狩しつゝ登る。頂は見ねながら容易に達すること能はず、息を入れ汗をふく、汗る人あり、轉ぶ人ありしが、幸に一人の負傷する人もなくして頂上に達しぬ。見渡せば山脈は波濤の如く獨り徳佐ヶ峯南方にあたりて、巍然として雲表に屹立するを見る。眼を轉じて北方を眺むれば、春海あふらの如く、蒼茫として天を浸し、白帆雲煙の間に出没する美しさ、筆にも言葉にも盡し難し。六島は夢の如く淡霧に包まれて青螺の如く、麥畑菜の花畑は青く黄に、眼下に見えて、其の風景描けるが如し。此の美しき景色に對して晝食を喫し、夫れより先生より附近の地理の御話を承り、三十分許り友達と共に猿狩をなして下山す、樵八幡宮金谷天滿宮を參拜し後歸途に就きぬ。

## 二、第四回同窓會の開催

大正六年八月二十九日、例年の通りなつかしき母校に於て第四回同窓會は開催せられぬ。  
其の日午前九時開會といふに、早くも八時前後には嬉しげなる顔して會員の方々は此處彼處に見えて、長き年月胸にかさめおかれたる教草はつみ出されぬ。やがて第一の鈴のひびきにつれて、午前の會場なる講堂にのぼる、先づ校長先生の開會の辞、會員一同の君が代合唱あり。ついで校長先生の御講話あり。名高き松陰先生の士規七則を題目とせられ、最も熱烈にしかも平易に面白き例をあげて、人格人情常識の人世にかぐべからざる三大要素なることを、いと懇切に説示されたりしかば、一同は深く感動しぬ。ついで中野先生は聲いと朗に士規七則を読みあげられて、一同の感をいよゝ深くせられ、なほやびを得ず事故の爲め、本日出席せられざる藤野先生の、山口町より特に寄せられたる祝電を朗讀せられたり。其の後沼田先生は衣食住其の他につき、有益なる御講話あり。夫れよりかねてまうけられたる本會特別名譽會員たりし至厚院故久原文子様の御靈位をはじめ、物故せられたる先生並に卒業せられし方々の御靈位に對し、一同香を

## 本會記事 會報部

大正六年四月より  
大正七年五月に至る

### 一、皇后陛下御誕辰祝賀會並に新入會員歡迎會の開催

六月二十五日 皇后陛下御誕辰祝賀式後職員生徒一同食堂に集まり 國母陛下御誕辰をことほぎたてまつり、新入會員を迎ふるため歡迎會を開催せり。  
先づ校長先生は開會の辞を述べられ 國母陛下の御榮をいのりまつり、ついで新入會員總代根來美代子さんは南園會入會の挨拶をせられ舊會員總代倉富イサさんは歡迎の挨拶を述べられ其の後餘興に移りしが談話朗讀或は眞面目に、或は滑稽に、それゝ特技を發揮せられていと面白かりき。夫れより福引あり、亦興を添ふる事一方ならず、最後に校長先生より懇篤なる御感想を承る。  
かくしてめでたき今日も感謝と歡喜との裡に閉會しぬ。

たきてうなねつきぬ、ありし昔の御儀など、一入思ひ出でられて涙催す方々も多かりき。時しも正午になりければ、食堂に集ひ幾年振りにて、思ひ出深き會食をなしたるうれしさよ。和氣譚然たるまどむのうちらに、くさんゝの御話を承る最中、同窓なる松村嬢姉妹の祝電あり。それより午後二時半までは隨意會談と定められしかば、親しき友たち三々五々に打ちつれて、こゝかしこ、思ひで多き校庭と、そのかみの幻影をたぞりつゝ、さまよひ、心ゆくまで語りあひたるぞいと嬉しき極みなりし。  
午後の會は、會計の報告、ついで中野先生の松宮先生はじめ諸會員のおとづれを朗讀せられしが、一同なつかしく耳かたひけぬ。つぎに協議題として夏季講習會を開くの件、地方委員の設置の件につきて提出せられ、中野先生より説明ありしが、一同舉手によりて賛成せり。其の後餘興に移り、會員全體の金剛石を始めとし、唱歌彈琴詩吟詠曲など、或は高く、或は低く、妙音秘曲をつくされければ、みなく酔へるか如く聲塵もために動きぬる心地予しける。なかば菓子、ジュネを饗せらる。

異いまだ盡さねど、夕陽西山に傾きければ、一同記念の撮影をなせり。この撮影は後に繪葉書として、わ

つかのしるにて分配せらるゝこととなりぬ。あはれ清き今日のまどむ、見たまぬ方々に見せたくなん。

### 三、卒業生修了生の送別茶話會

三月二十三日午後三時より、食堂に於て卒業生修了生の爲に送別茶話會は催されぬ。先づ校長先生は諸子を送る爲にこの會を開きて、前途を祝福する旨を述べられ、それより茶話會は開かれしが、或は感想談あり、或は經驗談あり、ついで唱歌謡曲等起りしが、送る者は哀々禁じ難き別離の思のべ、行くものは綿々盡さざる懷舊の情を吟じ、拍手喝采裡に午後四時過ぎ閉會せり。

### 四、南園會維持費寄贈

萩町吉田町本義助氏は故陸軍歩兵少佐岡本民三氏の、平素教育に對し特志を有せられたる精神を繼承せられ、大正七年二月二日本會維持費として、金拾圓寄贈せられたり。又本籍阿武郡萩町大字江向にして當時東京府荏原郡南品川町字淺間臺に住はれたる陸軍歩兵少尉岡本辰三氏は、祖父岡本樓雲翁の育英に力を注がれたる精神を繼がれ、大正七年四月十七日本會維持

費として金壹百圓寄贈せられたり。本會は此等の方々御芳志により、益々其の基礎を固うするを欣ぶ、茲に紙上にて謹んで其の厚意を謝す。

#### 前号の正誤及び脱落

前号十四頁本校基金の寄贈の中十行の令夫人は養嗣子秋介氏の前夫人の誤、尚ほ二十二頁校外會員の下、並に二十八頁在校會員の下に年齢順の三字脱落に就き、茲に訂正す

### 校外會員消息

(順序は日附)

前号に於て、校外會員の舊情を温めらるゝ爲め特に消息欄を設け、校外會員の簡潔なる寄稿を歓迎する旨掲載せしが、其の後特に寄稿せられし方は左の如し。今其の全文を掲ぐ。尚益々多數御寄稿あらんことを祈る。但し宛名は必ず南園會報部とし、記事は葉書にてなるべく簡潔明瞭にせられたり

○小野さく(舊松村) 下關市田中新町在住 一昨日は不束なる私にまで南園會報御送り下され誠に嬉しく有りがたく取る手おろしと開封致し申候 諸先

生の御筆のあとをはじめまわらせ母校の有様を誌上に見まらせては只管學生時代のなつかしさをいやまさり朝な夕な怠りなく南園の學庭にいそしみ給ふ在學生の方々は今更御羨ましく存じ候、日に月に進む母校のさま誌上にあらはれていと嬉しく益々御發展の程千代かけて祈り上げ候、甚だ失禮とは存じながら只一筆御禮のみ申上げ候、時節柄何卒御身御いとひ遊され度願ひ上げ候かしこ 大正六年六月十六日

○林保子(舊渡邊) 吉敷郡山口町在住 私事其の後無事家事にいそし居り候、先日はなつかしき南園會報第五号拜見いたし皆様の御様子を偲ひ申し候、なほ益々我が南園會の發展を祈り申候かしこ 六月十八日

○能美よし(舊片山) 新旅順吉野町三ノ八在住 本日はいとなつかしき南園會報御送り下され誠に有難く深く御禮申上候、早速拜見致し候處御座候にて御校の近状をくわしく此の地の私までも伺ひ得られ誠にうれしく存じ候、拜見致し候毎に過ぎし當時が一人なつかしく思ひ出され候、先は亂筆にて御禮申上候かしこ 六月二十一日

○齋藤やす子 東京和洋裁縫女學校在學中の通信一筆申上げをのらせ候、梅雨中にもかよはらず寒暖計

は早や九十三度にも相成り申候其後御變りはあらせられず候や降て私事は御座候にて無事に日々學の道にいそしみ居候へば憚りながら御安心下され度候、先日は南園會報第五号御送附下されなつかしく拜見仕り候益々御發展の御様子何よりうれしく運動場園の様を見るから歸りたく存じ候尚御會の益々御發展致さん事を伏して願ひ上げ参らせ候先は御禮のみかしこ 六月三十日

○大野秋(舊森重) 東京市牛込區山吹町二九五在住 暑氣堪へかねますが御懐かしい會長及理事様其他御在校會員御一同様には御障りも御座いませんか御伺ひ致します、降つて私事御座候にて恙なく暮して居ます故憚りながら御安心下さいませ、さて久々御無音致し何とも申譯が御座いません、私事今度東京に参る様になりました、當時は早速御報知致す筈で御座いました何が分取紛れ心ならずも延引致し誠に失禮致しました、又今度は御なつかしき南園會報御送附下さいまして有難う御座いました、久し振りで皆様に御目に掛りました様な氣が致しました、田舎の隅々や都のはてまで少しの御もらしも無く御送り下さいます御親切なることは深く感謝いたしました、座ながらに母校の様子が一目で知られることが出来

まして實に嬉しく御座います、會報にて承りますれば竹内先生は眼疾の爲御退任遊ばしませし由、御校にどりまして最も惜しむべき事と存じます、又校外會員の方で東京に来てゐらしやるのがたいぶんおありの様で御座います、何か皆様を御訪ひしたいものと思つて居ます、先は御禮かたじけなく近況御報まで其内皆様時節御身御厭ひの程專一と存じます、かしこ  
七月二日

○宮原百重 美禰郡赤郷村在住 拜啓 昨今のお暑さまことに堪へ難く御座候折柄其後皆様には御變りはあらせられず候や御伺ひ申上候降て私事も御座候にて事無う過ごし居り候や、憚りながら御心安う御思召し遊ばされ度候、さて先日は待ちに待ちたる會報御送り下され誠の有難く一字も洩さず拜誦いたし候其後母校の御發展誠に喜ばしく存じ候時分柄皆様御身御大切に遊ばされ度御願申上候かしこ 七月三十一日

○桂ゆき子(舊中原) 大阪府西成郡今宮町五二二ノ一 在住 今月初旬ふたとせ余り住みなれし東都を後に當地へまゐりました、此の邊は萩の茶屋と申しよはせ閑静です、私は二才になる女兒を相手に淋しいな

がらも平和な月日を過ごしてゐます、同期の長見さんが時々たづねて下さいます、二人にて萩の空なつかしく母校の御噂のみ致して居ります、十月二十八日

○田原千代子(舊石井) 神戸市本通四丁目一六清水 内在住 其の後は意外の御無沙汰致しました諸先生始め會員皆様には御變りはありませんか御伺ひ申上ます皆様御存じかも知れませんが十一月の十二日當地へまゐりました、家族は二人ですが主人は外國航路の船長ですから年に四回はかへりまされず、あど一人で淋しくる月日を送つてをります、折々は御便りをさらば 十二月二日

○吉田チヨ(舊原) 萩町土原前町原鹿蔵内在住 吹く風も心地よくいよ／＼春の時節となりました、なつかしい我が母校も日々に益々御盛大なことで存じます、さて私事昨年十一月に筑前の方より歸萩致しました、たが病氣の身にてなつかしい母校にも參ることも出来ませんで残念に思つてゐます、今では實家に歸つてゐまして養生してゐます、毎日床の中にはばかりに居りますから淋してなりません早く會報の發行を楽しみ待つてゐます母校の今後益々發展せんことを陰ながら祈つて居ります、思ふ様にペンがまはりませ

んから亂筆は御赦して下さいませ先は近況御知らせかたじけなく御伺ひまでかしこ 四月二日

### 篤志者芳名

一、本校の篤志を以て寄贈せられたる物品並に御芳名

(大正六年四月より大正七年五月迄)

松林 月筆畫幅 貳軸 明木村 瀧口吉良氏  
 維新戦没實歴談 壹冊 江 向 米原鶴太氏  
 松樹 壹本 橋 本 増山宗史氏  
 乃木大將書翰大形寫眞 壹卷 椿郷東分村 竹中常吉氏

二、南園會の篤志を以て寄贈せられたる金品並に御芳名

(大正六年四月より大正七年五月迄)

金參拾圓 吉田町 岡本 義助氏  
 金百圓 江 向 岡本 辰三氏  
 村田清風翁揮毫 河 添 田村 正一氏  
 井上馨公揮毫 堀 内 繁澤寅之助氏

金五圓  
 恩師乃木院長  
 故伊藤公肖像  
 師範學校國文教科書

阿武郡小學校長中  
 平安古 栗田 準一氏  
 土 原 山内 清次氏  
 平安古 栗田 鹿子氏

### 校外會費納入

(大正六年五月四日ヨリ大正七年五月二十日ニ至ル分)

中原 キク	松井 文子	中村 ノブ
三島 コウ	藤原 ふじの	竹内 文子
岡本 ミチ	中村 キク	中限 千代
藤井 三枝	松本 キク	長見 マサコ
高壽 ヨシコ	山本 チヨコ	野上 スエ
田阪 ミツ	中原 俊子	馬屋原 孝子
花村 秀子	岡部 シゲ	伊藤 睦子
岸 靜江	宮原 百枝	齋藤 マス
山下 マス	國弘 トメ	吉田 壽美
難波 アキコ	桂 竹子	河村 信子
椋木 アサ	佐伯 千代子	栗屋 雪
多田 峯子	中島 ヨシコ	藤本 芳江
河野 千世	田中 キク	師井 あい

會  
員  
名  
簿

金子喜代子  
武田アヤ  
杉村サヨ  
武林チヨコ  
小野サキ  
金子徳  
山中松子  
齋藤千代子  
渡邊嘉子  
伊藤雪江  
桂中キヨコ  
田中キヨコ  
白井チカ  
山田マサコ  
藤川清子  
香川マサ  
杉山艶  
音吉ノブ  
岡朝子  
富田シゲコ  
米原ハツメ  
大谷文子

厚東ヨシ  
小河キク  
河村千代子  
齋藤ミツ  
能美満壽子  
末武愛子  
小田エイ  
吉崎綾子  
倉富イチ  
伊藤芳子  
田阪文  
藏貫ツル  
松本八重子  
瀧口澄江  
吉村糸妣  
岡ツチヨ  
大島梅尾  
小野静子  
吉賀菊江  
中村貞子  
山本静子  
松尾治子

黒瀬美知子  
横地幸子  
岩竹ハナエ  
岸森京  
竹重ツチ  
末武満子  
河野ツチ  
瀬戸藤之  
田上ヨシコ  
今田ナヲコ  
藤田シゲ  
中山壽子  
小河レカ  
羽島志津  
有吉トミコ  
山内ヒサコ  
池田トミ  
波多野ナツ  
岡本朝子  
土田ユリ  
服部智世子  
服部サトセ

陶村園子  
竹内好子  
林ハルコ  
石川ハルコ

松本ヨシコ  
伊藤ヨシ  
井上富美子  
長井トシ

高洲美代  
厚東フミ  
渡邊幸代



會員名簿

(大正七年五月)

特別名譽會員

兵庫縣武庫郡本山村 (逝去)

全 全

名譽會員

兵庫縣武庫郡打出村  
 兵庫縣神戶市奥平野  
 玖珂郡岩國町  
 阿武郡明木村  
 豐浦郡長府町安養寺 (全郡勝山村)  
 阿武郡萩町  
 阿武郡萩町(吉敷郡大内村)  
 大阪市東區生玉町

久原文子氏  
 久原房之助氏  
 久原清子氏

齋藤幾太氏  
 田村市郎氏  
 松浦誠氏  
 瀧口吉良氏  
 横俊治氏  
 増山宗史氏  
 岡村勇二氏  
 岡十郎氏

特別會員

阿武郡萩町(吉敷郡秋穂二島村)  
 阿武郡萩町(吉敷郡秋穂二島村)  
 阿武郡萩町(吉敷郡秋穂二島村)

全 河添(吉敷郡嘉川村)

全 十日市(全)

阿武郡山田村

全 郡萩町江向 (吉敷郡秋穂二島村)

本校住宅 (福井市寶永中町二五)

阿武郡萩町江向

全 平安湖(阿武郡彌富村)

阿武郡萩町

阿武郡萩町惠美須町

本校寄宿舎(吉敷郡吉敷村)

本校住宅(兵庫縣神戶市家島町)

本校住宅(南武庫山田村)

斎藤 秀一  
 米原 鶴木  
 中野 貞介  
 藤野 カネ  
 池上 岩太郎  
 奈良 小千代  
 堀江 ウタコ  
 安野 章  
 長野 市郎  
 世良 ハツ  
 河村 一郎  
 安永 スエ  
 八木 〇さき  
 田村 ヲ

Handwritten notes at the top right of page 38, including a date "1913" and other illegible characters.

阿武郡萩町吳服町 全 東田町 全 江向 全 福島城清 全 河添 全 坂口五郎 山内清次 中野スエ 藤井二郎 安藤テエコ 山田兵吉 竹内新三郎 飯塚マツヨ 北川恒 大谷タカ 田中タカヨ

舊特別會員

阿武郡佐々並村(死亡) 厚狹郡役所 鹿兒島縣鹿兒島郡外武一四八 滋賀縣立女子師範學校 和歌山縣日高郡立實科高等女學校 兵庫縣赤穂實科女學校 岡山縣岡山市一番町 松田ハル 三隅要之助 植村秀枝 松宮シヲ 高田哲 河原夏 前田直子 阿武郡萩町手安湖 新潟縣立高田女學校 東京市私立共立女子職業學校 石川縣金澤市裏千日町九 大阪府北河内郡立 河北高等女學校 橫須賀市深田五九 大阪市東區市立桃園幼稚園 阿武郡萩町河添 阿武郡役所 東京市私立共立女子職業學校 新潟縣立高田女學校 石川縣金澤市裏千日町九 大阪府北河内郡立 河北高等女學校 橫須賀市深田五九 大阪市東區市立桃園幼稚園 阿武郡萩町河添

校外會員

第一回卒業生 (大正二年三月卒業) 氏名 本籍 近况 松野 ヨキ阿、萩十原 伊藤 コウ阿、萩土原 松本 早知阿、萩東田町(補) 梅田 カツ阿、萩南片河(補) 金田 トキ大、瀬戸崎(結)

Handwritten notes at the top of page 39, including the name "福住" and other characters.

大草 政子 阿、萩平安古(補) 山本 幸阿、萩濱崎(補) 倉田 チヨ全、全魚店町(結) 津田 エン全、全東田町 竹内 ミツ全、全惠美須町(結) 中島 スエ全、全御許町(補) 高垣 清子全、全古萩(結) 田中 冬子全、椿村(死亡) 齋藤 ミドリ全、大井村(補) 山下 歌子全、椿村(結) 久保田 ミサコ全、椿郷東分村(補) 後藤 ハル全、萩惠美須町 永井 ミツ全、椿郷東分村 佐々木 フコ全、三見村(補) 金子 ハツ全、大井村(結) 藤田 サト全、福川村 野上 ササ全、萩土原(補) 倉田 静子 阿、萩西田町(補) 藤井 キク全、徳佐村 平田 トシコ全、萩熊谷町(結) 馬庭 タマコ全、福川村 松井 チヨ全、萩橋本 津田 桃代 阿、椿郷東分村 上原 マサ阿、萩新堀(結) 時藤 しな全、全江向(全) 岡 レン大、三隅村(全) 桂 シヅエ阿、椿村(全) 岡部 ミサ全、萩今古萩(補) 多田 マツ全、椿郷東分村(補) 上田 トミ全、萩河添 石津喜與子全、萩東田町 草刈 フア阿、萩河添(補) 上田 信子全、明木村 神代 君子全、萩河添 大賀 チヨ全、全盛屋町 三宅 節美、大嶺村(補) 吉田 チヨ阿、萩土原 難波 ハツコ全、全米屋町(補) 大野 アキ全、大井村 島田 壽美全、椿村(結) 木原 霜全、萩堀内 内藤 千代全、萩濱崎(補) 上田 正子全、椿村 高橋 恭全、奈古村(結) 長見 キシコ全、萩禮屋町 桂 コキ全、椿郷東分村 安達 ハナ全、全

Handwritten notes on the left side of page 39, including "三丁目" and "西開方".



岡部 ミヨコ 阿、萩御許町 (補) (結) 香川  
 原 キク 全、萩平安古 (補) (舊姓藤本)  
 田中 千代 全、萩橋本 (結) (阿佐ヶ原村)  
 村田 イ 全、川上村 (結) (舊姓中原)  
 倉重 マサコ 全、萩郷東分村 (舊姓新地)  
 小野 さく 全、萩江向 (補) (結) 下關市田  
 岡 タカ 全、福川村 (補) (舊姓川縣橋)  
 伊藤 於松 全、大井村 (舊姓新地)  
 宮本 タカ 全、萩西田町 (舊姓新地)  
 横地 幸 全、萩江向 (結) (舊姓新地)  
 田邊 カノ 全、萩郷東分村 (結) (山下)  
 河村 タミ子 全、萩熊谷町 (結)  
 藤掛美智子 全、萩江向 (結) (舊姓三宅)  
 澄田 ハツ 全、萩郷内 (田村字金田橋)  
 吉本 ヨシ 全、萩米屋町 (結) (舊姓神村)  
 阿部 スマ 全、萩北片河町 (結) (大、深川)  
 岡部 シゲコ 全、須佐村 (須佐村育英尋常  
 高等小學校在職)

山根 英子 阿、萩河添 (補) (在愛知縣豊  
 三好 貞子 全、萩西田町 (結) (姫路五軒  
 藤田 豊子 全、萩平安古 (結) (藤八丸  
 大 中 テイ 熊、淺江村 (補) (藤江村三  
 第三回卒業生 (大正四年三月卒業)  
 氏 名 本 籍 近 況  
 阿部 タケコ 阿、彌富村 (在島根縣)  
 粟屋 雪 全、萩江向 (在東京)  
 藤田 愛子 全、吉部村 (補) (結) (大三橋  
 山本 ウメコ 全、萩濱崎 (補) (舊姓新地)  
 藤村 マツ 全、川上村 (萩江向)  
 松野 花子 全、萩土原 (結) (支那上海日  
 三浦 チセ 全、萩濱崎 (内)  
 櫻井 由子 全、萩平安古 (結) (名古屋  
 河野 ミツコ 全、萩今古萩 (死) (舊姓河北)  
 山口屋 シナ 全、山田村 (結) (舊姓中山)  
 渡辺 誠 所合名會  
 社 藤田 組 山口 組 關  
 一方 (舊姓山下)

大森 チヨ 阿、萩濱崎  
 村上 ミチ 全、萩東田町 (補) (日本橋長壽寺  
 椿 嘉子 全、萩郷東分村 (在東京)  
 長崎 チエ子 全、山田村 (結) (東京本郷五  
 西山 ヨシ 全、萩川島 (丁目二番地)  
 國弘 トメ 全、萩川島 (結) (在熊本)  
 林 清子 全、萩平安古 (小川)  
 君谷喜與子 全、吉部村 (結) (舊姓新地)  
 田中 ツルコ 全、吉部村  
 中村 操 全、椿村 (結) (大田市南區生  
 吉田 壽美 全、萩川島 (補) (結) (在下關)  
 植村 フミコ 全、萩郷東分村 (市)  
 齋藤 マス 全、大井村 (補) (大津郡日  
 厚東 佐世 全、萩郷東分村 (補) (村田町尋常  
 小學校在職)  
 秋枝 アヤコ 全、福賀村  
 原 フミ 全、川上村 (結) (萩川島  
 南方 京 全、萩郷東分村 (補) (阿武郡三見村  
 植村 サチコ 全、椿村 (結) (舊姓山本)  
 幸子 全、萩橋本 (結) (古家印小印)

福永 フサ 阿、椿村 (結) (阿武郡川上村  
 倉増千代子 全、高俣村 (補) (死亡)  
 河田 レズ 秋、米川村 (補) (萩町土原  
 齋藤 キク 全、椿村 (補) (結) (在朝鮮  
 阿武 カノ 東分村 (結) (在朝鮮  
 赤司 尊子 全、萩吉田町 (補) (結) (在朝鮮  
 黒瀬 キミコ 全、萩江向 (補) (結) (在朝鮮  
 山下 サト 全、萩郷東分村 (結) (在朝鮮  
 三村 シヨ 全、椿村 (結) (在朝鮮  
 中原 トヲ 全、萩土原 (結) (在朝鮮  
 長谷 トシ 全、萩濱崎 (全) (舊姓吉賀)  
 摺見 菊代 全、椿村 (補) (明武郡新地立  
 小學校在職)  
 重枝 フキ 全、萩橋本 (結) (在廣瀨  
 中村 スミ 全、椿村 (結) (舊姓大山)  
 松原 ツル 全、萩 (結) (京都市東區河  
 大田 ヨシ 全、萩土原 (下立賣上)  
 村木 秀子 全、萩郷内 (補) (美濃郡於  
 能美滿壽子 全、萩土原 (補) (尋常高等小  
 馬屋原孝子 阿、萩郷東分村 (尋常高等小  
 學在職) 堀岡若松市  
 堀岡四丁目

内藤 ヨシコ 阿、萩江向 (補) (補) (結) 北海  
 佐藤 シヅ 全、萩平安古 (道十勝國浦幌  
 市街)  
 藤井 ナツ 全、萩江向 (結) (舊姓金子)  
 河野 千世 全、萩土原 (補) (萩明倫尋常  
 高等小學校  
 小笠原 嘉子 全、萩 (結) (大阪府下  
 米屋町 (結) (新旗原吉野町  
 能美 ヨシ 東分村 (結) (舊姓片山)  
 井上 マツヨ 阿、福川村 (補) (全五丁目  
 長嶺 芳子 全、德佐村 (千葉鶴千  
 小河 ハナエ 全、萩江向 (結) (町本町三  
 五六七)  
 水野 ハナ 全、萩河添 (補) (全) (平水)  
 三浦 ヨシ 全、萩江向 (舊姓岩竹)  
 金子 トミ 全、萩郷東分村 (舊姓石井)  
 岩崎 ヤダコ 全、萩江向 (結) (阿原上)  
 長谷 千代 全、萩津守町 (津守市本  
 田原千代子 全、萩 (結) (津守市本  
 古橋 喜代 阿、萩川島の在東京  
 野村 フヲ 全、萩米屋町 (舊姓石井)

金子 清 阿、宇田郷村 (補)  
 榎原 マサミ 全、萩郷内 (補) (死亡)  
 堀水 フクコ 全、萩東田町 (補) (結) (在東京)  
 松岡 シズコ 阿、萩郷東分村 (道十勝國浦幌  
 市街)  
 淺野 ミサオ 阿、萩江向 (結) (出町三日  
 寺田 クリ 全、萩郷東分村 (舊姓伊藤)  
 阿部 チヨ 全、萩古萩  
 松屋 チヨ 全、萩東田町  
 岡本 シゲコ 全、萩平安古  
 山本 松江 全、萩江向 (補) (木向町三丁目)  
 松井 文子 全、萩川島 (補) (在東京)  
 三村 キク 全、萩郷東分村 (在大津郡  
 溝部 ハル 阿、萩郷東分村 (津守市東  
 小野 フミコ 全、奈古村 (補) (小學校在職)  
 藤井 政 全、萩米屋町 (結) (萩江向  
 御重 春 全、萩江向 (結) (津守市本  
 宮原 ヒサ 全、萩平安古 (津守市本  
 米原 ハツメ 熊本市外 (補) (津守市本  
 鈴木 壽子 阿、萩西田町 (補) (津守市本

神戶市  
 三丁目  
 三丁目

五丁目  
 小川町  
 大坂市北區西野田江坂町三八下浦方(四) 姓

船江 船尾ミドリ 阿、萩江向(補) 在朝鮮  
 光田 コト 全、萩熊谷町  
 村田 須惠 全、萩江向  
 林 保子 全、萩(結) 山口町八幡馬場  
 遠藤 トキ 全、萩古萩 (舊姓遠藤)  
 國重 静子 全、椿郷東分村(補)  
 佐伯千代子 全、福川村(補) 福川町  
 和井 豊子 全、萩橋本(結) 小學校在職  
 和井 秀子 全、萩河添 山口町下立  
 阿武 文子 全、福川村(補) 小路口高方

井本 龜子 阿、須佐村  
 伊藤 光子 全、萩(結) 東京市外四大久保  
 前田 トミコ 全、地福村 (舊姓北村)  
 能美 キコ 全、萩唐樋  
 倉増 菊野 全、椿 (阿武郡高保村)  
 浮里 ミヨコ 阿、三見村(結) 三見町  
 猪口 菊枝 郡松帆村 東京市東區飯田  
 織 富美 阿、萩南古萩 (結) 山形県  
 中隈 千代 島根縣濱田(補) 萩川島  
 佐々木 フサコ 阿、生雲村 (舊姓吉山)  
 白井 アキコ 阿、山田村倉江 (舊姓吉山)  
 横山 ツル 全、萩河添 (舊姓吉山)  
 野村 マツ 全、椿郷東分村(結) 萩川島  
 井町 スミ 全、三見村 小學校在職  
 江山 タキコ 全、椿村雜式町(結) 萩川島  
 中村 絹子 全、萩川島  
 田原 秀子 全、山田村  
 中村 ヨシ 全、萩川島 在朝鮮

齋藤 キク 阿、萩御許町(結) 萩川島  
 澄川 トヲ 全、小川村(結) (舊姓植木)  
 河村 ミト 全、萩土原(補) 高島町  
 岩田 豊子 全、山田村奥玉江  
 伊佐 喜美 全、萩橋本  
 原川 壽子 全、萩土原(補)  
 黒瀬 ヒデ 阿、椿郷(結) 椿村(舊姓久)  
 長見 マサコ 阿、福賀村(補) 萩服吳町  
 下間 静子 全、萩吉田町(結)  
 高壽 ヨシコ 全、山田村玉江浦 佐波郡防府  
 藤原 ふじの 佐、防府町(補) 下道  
 井上 富美子 全、萩江向 東京市東區  
 竹内 文子 佐、島地村(補) 萩川島  
 野上 壽恵 阿、萩土原(補) 萩川島  
 石光 茂子 全、萩下五間町  
 堀 綾子 全、萩上五間町  
 吉村 キク 全、椿郷東分村中倉  
 安田 高子 全、萩河添 大坂市北區  
 齋藤 ヤスコ 全、椿村大谷 四番地

末武 満子 阿、椿郷東分村越ヶ濱  
 玉井 芳江 全、萩江向 東京市東區中六  
 堀 君代 全、萩河添(補) 丁七番地  
 山本 チヨコ 全、萩平安古(補) 在大阪  
 藤山 ヨクセ 全、紫福村  
 難波 アキ子 全、萩米屋町(補)  
 國司 八重 全、椿郷東分村鶴江  
 宗榮 シゲコ 全、萩橋本  
 高橋 タカコ 全、萩江向  
 村上 マス 全、萩東田町(補) 萩川島  
 植村 雪子 全、椿郷(補) 萩川島  
 阿武 ミユキ 阿、椿郷東分村(死亡)  
 石川 文子 全、椿郷東分村(補)  
 村木 フミコ 全、椿郷東分村  
 榎 雪子 豊、勝山村(補) 豊浦郡長府  
 花村 秀子 阿、萩堀内(補) 東京市東區  
 岡本 ミチ 全、萩吉田町(補)(結)  
 堀 壽子 全、萩河添  
 原 末 全、萩平安古  
 山下 マス 全、山田村(補) 三見町  
 柴田 タケコ 全、高保村(結) (舊姓吉岡)

石井 壽萬 阿、萩土原 東京市東區  
 白根 光子 全、萩濱崎 坂町千葉第一方  
 上田 ツル 全、萩御許町(死亡)  
 久保 春枝 全、萩濱崎(結) 萩東田町  
 今地 マツ 全、川上村  
 吉田 ヨシコ 全、萩濱崎(補)  
 中原 俊子 全、萩橋本(補)  
 小笠原 マス 全、萩堀内 東京市東區  
 萩村 文子 全、萩御許町 長門縣萩市  
 後藤 アサ 全、萩今古萩 (舊姓萩村)  
 渡邊 八百 全、萩江向東京本郷林町  
 山中 照子 全、萩橋本 (舊姓萩村)  
 水田 操 全、椿郷東分村(結) 萩川島  
 千代 阿、萩西日村(補) 萩川島  
 重枝 トヲコ 全、萩橋本 大坂市東區  
 藤井 良子 全、萩米屋町 三見町  
 齋藤 テル子 全、萩濱崎 (舊姓萩村)

第五回卒業生 (大正六年三月卒業)  
 氏名 本籍 近況  
 宮原 百重 美、赤郷村 豊浦郡長府  
 茂住 タミ 阿、萩平安古  
 三島 コウ 全、三見村  
 都築 ヨキコ 全、生雲村(補) 萩川島  
 小林 トキ 全、奈古村  
 中村 キク 全、三見村  
 後藤 フミ 全、萩唐樋  
 倉富 イチ 都、鹿野村(補) 長門縣萩市  
 富士見 フサコ 玖、岩國 朝野郡山陽天  
 伊藤 雪江 阿、大井村 朝野郡山陽天  
 伊藤 芳子 全、全  
 伊藤 ヨシ 全、椿郷東分村  
 村上 政子 全、萩土原  
 河村 千代子 全、三見村 在京都  
 松尾 壽 全、椿郷東分村  
 岸 キク 全、小川村(結) 萩川島  
 藤貫 ツル 全、生雲村(補) 三見町  
 伊藤 トミコ 全、椿郷東分村  
 椋木 アサ 大、三隅村  
 河井 サチ 阿、萩川島  
 伊藤 睦子 全、大井村  
 藤原 英子 全、御生村 萩川島  
 藤原 美子 全、御生村 萩川島

岸 静江阿、椿村  
 長井 トシ全、川上村 萩江向  
 石川 ハル子全、椿村(補)  
 師井 わい全、萩熊谷町  
 松本八重子全、全江向(補)  
 厚東 コシ全、山田村奥玉江  
 新藤 真子全、宇田郷村(結)  
 竹内 好子全、萩古萩  
 倉増 太代全、高俣村(補)  
 池田 京子全、萩熊谷町(補)  
 岸森 京全、全江向(補)  
 大崎 芳子全、全御許町(結)  
 金子喜代子全、全川島  
 武田 アヤ全、山田村奥玉江  
 河村 信子全、椿郷東分村  
 田上 コシ全、全(補)  
 田中キヨコ全、椿村(補)  
 並川 サヨ子全、萩河添  
 厚東 フミ全、椿郷東分村(補)  
 中島ヨシコ全、萩土原  
 武林チヨコ全、全平安古

松本 静子阿、萩東田町(補)  
 松尾 キク全、椿郷(結)  
 宮川 ツル全、萩濱崎(補)  
 田中キクコ全、椿郷東分村  
 三浦 三枝全、萩江向(結)  
 田中 静子全、椿村(補)  
 長屋チヨノ全、山田村木間  
 柴田 さく全、萩江向(補)  
 中原 則子全、福川村  
 松本喜久子全、椿郷東分村  
 渡邊 嘉子全、萩古萩(補)  
 久保アヤ子全、同江向(補)  
 木村 静枝 島根縣益田町  
 杉村 サヨ全、阿、山田村奥玉江(死亡)  
 小島空つ子全、椿郷東分村(補)  
 土田 ユリ 島根縣益田町  
 松浦 ウメ全、萩橋本  
 吉田 貞子全、椿郷東分村(補)  
 齋藤 雪枝全、萩新堀(補)

盛田 庚子阿、椿郷東分村  
 松浦千代子 玖、岩國散島  
 桂 竹子阿、萩土原  
 神野 サキ全、萩江向  
 山根 茂子全、椿村(補)  
 白井 ナカ全、全(補)  
 末岡ハルコ全、於福村(補)  
 渡邊 コシ全、阿、椿村  
 吉屋 ハル全、萩油屋町(補)  
 溝部ハナコ全、椿郷東分村  
 多田 峯子全、同  
 草刈 政子全、萩河添  
 小野 サキ全、椿村(補)  
 乃美ハツエ全、萩江向  
 田中 澄江全、明木村(補)  
 黒瀬美智子全、山田村  
 藤田ハツセ全、椿村東京和洋織造女學校  
 増山ウメコ全、萩町(結)  
 新庄 貞子全、萩土原(補)  
 増山 静子全、萩橋本

第六回卒業生 (大正七年三月卒業)

氏名 本籍 近況

三好 シゲ阿、萩町濱崎 東京市神田區共立女子學校在學  
 栗田 鹿子全、吉部村 阿、萩町平安古  
 岩武 綾全、紫福村 (在徳山町)  
 岩田フミエ全、篠生村  
 山田マサ子全、山田村 東京在徳郡大井村鹿島谷兒玉中將内  
 竹重 ツチ全、吉部村  
 小野 静子全、奈古村 (大正七年四月死亡)  
 堀永 ッタ全、三見村 椿郷東分村沼田  
 中原シグコ全、萩(結) 菅原(菅原富田)  
 藤田 真子全、椿村  
 羽島 志津全、椿郷東分村  
 平田 スミ全、椿村  
 品川マツコ全、福賀村  
 堀 清子全、宇田郷村  
 田中 静子全、椿村(在補)  
 高洲 美代全、同  
 金子 徳全、宇田郷村

桂 静阿、萩町川島  
 内藤ツルコ全、同江向  
 今田ナチコ全、同五間町  
 山中 松子全、同平安古  
 服部サトセ全、紫福村(補)  
 有吉トミコ全、萩町西田町  
 關屋 千代全、同瓦町(在補)  
 森屋 露子全、同米屋町  
 大谷 文子全、同唐樋  
 中村 貞子全、椿郷東分村  
 岡 朝子全、萩町濱崎  
 林 文全、同江向  
 藤田フサコ全、椿村  
 末成 清子全、萩町平安古(在補)  
 波多野ナツ全、同町新堀  
 後藤 通子全、椿郷東分村(在補)  
 河野 ツチ全、奈古村  
 小田 エイ全、同  
 早川 昭子全、萩町堀内(在補)  
 村上 ウメ全、同東田町(在補)  
 堀上 コシ全、同新堀(在補)

山口縣病院赤十字社看護婦養成所  
 菅原(菅原富田)  
 大庭ヨシコ阿、萩町西田町  
 岡本 朝子全、同米屋町  
 陶村 園子全、同平安古  
 松本ヨシコ全、同新堀  
 香崎 綾子 熊、室津村  
 西郷ヨシコ阿、椿郷東分村  
 松尾 治子全、萩町江向  
 藤田 貞子全、福川村 萩町土原  
 池田 トミ全、椿郷東分村  
 杉山 艶全、萩町  
 河村ヒサコ全、同川島(在補)  
 吉賀 菊江全、同熊谷町  
 齋藤千代子全、大井村  
 吉村 糸妣全、椿郷東分村  
 藤田 ヲケ全、椿村  
 秋本ミツコ全、萩町 東京市神田區共立女子職業學校在學  
 黒瀬、操全、椿村  
 田嶋イセコ全、萩町平安古(在補)  
 杉 登志恵全、同吉田町(在補)  
 岡 ツチコ全、福川村  
 山内 ヒサ全、萩町土原

安井 フユ河、川上村  
村上 スエ全、萩町  
香川 マサ全、同土原  
大島 梅尾全、同濱崎  
杉山 愛子全、同中渡  
小島 芳子全、同中渡  
音吉 ノブ全、萩町熊谷町  
小河 シカ全、小川村  
石川 梅尾全、椿村(在補)  
渡邊 幸代全、萩町平安古  
白石 壽子全、同東田町(死)  
屬 智子全、萩町  
田坂 文同、同久保、同山田、同末  
田村 トミ同、同河添  
藤川 キヨ子同、同西田町  
末武 愛子同、椿郷東分村越ヶ濱  
伊藤 ハナ子同、萩町江向(死)  
阿座上 敏子同、川上村 萩町江向  
中山 壽子同、萩町 死  
原 千代同、同  
岡 ヒデ子同、同  
瀬戸 藤之熊、周防村(在補) 高保、同

在校會員

第三學年梅組 (年齡順)  
氏名 本籍 近况  
殿重 ユミ美、大田村 萩町江向  
山縣 ヤス阿、萩町  
伊達 ユキヨ全、椿村(本校寄宿舎)  
平田 春江全、小川村(本校寄宿舎)  
井町 ヒサコ全、萩町濱崎  
山中 繁全、全  
伊藤 ナヨ全、川上村  
池田 スミ子全、奈古村(本校寄宿舎)  
後藤 テウ全、萩町濱崎  
三島 ヒナコ全、三見村  
安田 清子全、萩町河添  
井上 壽子全、福川村(本校寄宿舎)  
三戸 ミヨ全、萩町江向  
原 マチ全、紫福村(本校寄宿舎)  
神代 雪子全、山田村  
植村 文子全、椿郷東分村  
阿武 竹子全、全(新)  
阿座上 イト全、紫福村 萩町北古萩

大賀 ヒデ阿、萩町御月  
三好 ウツ熊、淺江村 萩町江向  
宮原 千代阿、萩町土原  
宮木 信子全、福賀村 萩町平安古  
植村 基礎全、椿郷東分村  
見玉 ヒキ全、全  
厚東 美恵全、全  
林 貞子全、萩町平安古  
山下 キヨ全、山田村  
三隅田 タマ全、萩町平安古  
來島 シヅ全、山田村  
藤田 トロ全、椿村  
津田 サダ子全、萩町江向  
森田 ミチ子全、福川村(本校寄宿舎)  
佐田 初枝、美、大嶺村 萩町  
堀 梅阿、椿郷東分村  
倉田 喜久代 大阪市 (本校寄宿舎)  
中村 ハナ阿、萩町土原  
末益 マス全、奈古村 萩町橋本  
山本 静子全、萩吳服町 (本校寄宿舎)  
田坂 文子全、萩町江向  
溝部 ウメ子全、萩橋本町

(多岐見子)  
小島 芳子

伊藤 桃與阿、椿郷東分村  
田中 トシコ全、椿村  
半井 嘉子全、萩町  
大田 春代全、吉部村(本校寄宿舎)  
伊佐とみこ全、萩橋本町  
立野 彌壽子全、田万崎村  
森 松枝全、川上村  
第三學年菊組 (年齡順)  
氏名 本籍 近况  
金子 貞阿、宇田郷村 (本校寄宿舎)  
遠崎 シヅ子全、萩町濱崎(在補)  
内藤 ミツ全、萩川島  
阿武 フミオ全、萩町  
荒瀬 鈴子全、金澤町(本校寄宿舎)  
瀧口 和子全、明木村 (本校寄宿舎)  
木村 サダ全、萩惠美須町  
金子 喜勢子全、椿郷東分村 萩町江向  
松浦 キミ子全、萩濱崎  
中村 ヤエコ全、萩江向  
笠井 咲子全、椿村 (本校寄宿舎)  
松井 須磨子、美、赤郷村 (本校寄宿舎)

竹内 マツ阿、萩惠美須町  
中村 花子阿、萩川島  
植村 フヲエ全、椿郷東分村  
山川 ヤエコ全、全  
久保 操全、萩土原  
加藤 静江全、萩町  
鈴川 綾子吉、東岐波村 萩御許町  
山田 ユク子阿、山田村  
兼重 安子全、萩川島  
落合 敏子全、萩吳服町 萩堀内  
原 スミ全、紫福村 萩町  
市原 安子全、嘉年村(本校寄宿舎)  
横山 ヨシコ全、川上村萩町江向  
木原 ヨシ全、椿郷東分村  
久保 アサ子全、萩濱崎  
田中 マサ美、共和村(本校寄宿舎)  
堀 文子阿、萩町河添江向  
澄川 千里全、小川村(本校寄宿舎)  
今地 ヒデ全、川上村(本校寄宿舎)  
和田 貞 郡波根東村(本校寄宿舎)  
阿川 榮子 阿、地福村(本校寄宿舎)  
岡村 由枝 島根縣津和野町(本校寄宿舎)

松永 かつ大、向津具村川尻  
吉津 ツキ阿、椿郷東分村  
竹内 淑子全、萩平安古  
前田 磯子全、山田村  
藤田 綾子全、福川村(本校寄宿舎)  
鳥田 トメ子全、川上村  
河村 清子全、椿郷東分村  
大野 美知子全、萩町川島  
波多野 芳子全、三見村  
前田 英子全、地福村(本校寄宿舎)  
羽仁とみ子全、萩町平安古  
大谷 静子全、全濱崎  
齋藤 ハナ子全、全  
第三學年梅組 (年齡順)  
氏名 本籍 近况  
根來 美代子、美、秋吉村(本校寄宿舎)  
小田 ナホ阿、山田村  
重岡 キヨ全、萩町堀内  
河野 ニキコ全、萩町  
廣村 ハナ全、椿郷東分村

逸藤 秀阿、椿郷東分村舟津  
 加藤シヅコ全、萩西田町  
 花田 三子全、萩町江向  
 五峯ヨシコ全、萩町  
 高村ミチエ全、椿村  
 佐竹 昌子美、岩永村(本校寄宿舎)  
 山田 ヨシ阿、萩町  
 矢島サカヘ全、高俣村(本校寄宿舎)  
 横山ミチコ全、萩町河添  
 阿武 菊枝全、川上村 萩町平安古  
 海山ヨシコ全、萩町  
 寺山 豊子全、地福村(本校寄宿舎)  
 信常 壽子全、萩町  
 鈴木 ヒデ 静岡縣志太(本校寄宿舎) 郡六合村、(宿舍) 萩町  
 前原 信子全、全  
 澄川 孝子全、全濱崎  
 光國 爲子全、萩米屋町  
 金國テロコ全、萩町江向  
 木村キヨ子同、萩町  
 兄玉フサコ吉、井關村 萩町江向  
 金子よし子阿、萩町江向

白井 サメ阿、椿村  
 中村ツル子 同、福川村 (本校寄宿舎) 福井下  
 兒玉 章子同、明木村(本校寄宿舎)  
 渡邊 初子同、萩町  
 小澤 ハツ同、同平安古  
 竹内 恒子同、同 (本校寄宿舎)  
 中原 澄同、同江向  
 森永 俊子美、眞長田村眞名村(椿郷東分) 溝部 元妃阿、椿郷東分村松本市  
 山本イトコ同、同  
 口羽 朝子同、篠生村(本校寄宿舎)  
 井町 ウメ同、萩町  
 仁尾 玉 高知縣高岡 萩町八丁 郡東又村  
 堀江トミ子阿、萩町江向  
 田中 キサ同、椿郷東分村越ヶ濱  
 大津 照子同、萩町  
 松浦マツコ同、同橋本  
 豊田喜代子同、同河添  
 高洲ナヲ子同、同土原  
 林 春枝同、同川島  
 遠藤千代子吉、小郡町上郷 萩町  
 福島 仁子阿、椿郷東分村

第二學年菊組 (年齡順)  
 氏 名 本 籍 近 況  
 松本 恒子阿、萩東田町  
 松浦 クラ全、奈古 (本校寄宿舎)  
 高橋 キク全、萩町  
 幸阪サチ子全、全  
 古川 末子 崎村 (本校寄宿舎)  
 小野 君子全、全江崎(本校寄宿舎)  
 平田ウメヨ同、紫福村(本校寄宿舎)  
 西山 キヨ同、山田村  
 領家 文子同、宇田郷村  
 谷川トラコ同、山田村  
 鈴木ヒサコ同、同  
 山田 ミツ 村濱崎 (本校寄宿舎)  
 石光 波子同、萩町  
 野村 幸同、同  
 林 静子同、同平安古  
 水津 サト同、大井村 萩町江向  
 行本 ヨシ同、萩町橋本  
 後藤かつよ同、同御許町  
 片山三知子同、椿郷東分村中ノ倉  
 岸 緑阿、椿村金谷

宮本マヌエ阿、萩南片河町  
 三戸 キヨ全、山田村  
 國重 淑子全、椿郷東分村  
 原 敏子全、地福村(本校寄宿舎)  
 大谷 キク全、椿村  
 山田 チヨ全、萩町  
 松林 和子全、椿郷東分村舟津  
 堀 ナミ全、萩町土原 全町川島  
 田村マサコ全、山田村  
 阿武 壽子全、椿郷東分村  
 田阪アヤ子熊、八代村 萩町  
 永田 シツ全、椿郷東分村香川津  
 秋山 佳重全、萩町北古萩  
 小島美知恵全、萩町  
 小河 ッチ全、小川村(本校寄宿舎)  
 須子美登里全、小川村(本校寄宿舎)  
 山中 照子全、萩町  
 北野ツネ子全、萩町平安古  
 飯田 タイ 東京本郷區 萩町平安古 駒込退分  
 小島 繁子 阿、椿郷東分村鶴江 山田村  
 小野 静子全、椿村  
 八木 房子阿、萩西田町

能美八重子全、萩町  
 三浦 アヤ全、全江向  
 堀本 トメ全、全堀内  
 村田 勝子全、萩町  
 坪倉シゲ子全、全  
 鎌見 愛江全、椿村  
 佐久間コキ全、嘉年村(本校寄宿舎)  
 第一學年梅組 (年齡順)  
 氏 名 本 籍 近 況  
 田中 君阿、萩町川島  
 守永 節子全、生雲村(本校寄宿舎)  
 松尾 篤全、大井村  
 小島 貞子全、椿郷東分村中ノ倉  
 松田 里子全、山田村  
 原 ユキコ全、萩御許町  
 宇多田静子全、椿郷東分村沼田原  
 砂 久子全、萩町堀内  
 大深 基全、奈古村  
 高木フミコ全、椿郷東分村椎原  
 大島ヨシコ全、萩町濱崎  
 中村サカエ全、全江向  
 江山タマコ全、地福村(本校寄宿舎)

田村ヨシ子阿、椿村河内  
 田中 清子全、萩町北片河  
 石川 久子全、椿村沖原  
 河村 綾子全、萩橋本町  
 米原 熊本縣鹿兒 萩町江向 熊本縣鹿兒 (本校寄宿舎)  
 原田 光子美、共和村嘉萬上郷 (本校寄宿舎)  
 山本 キク阿、山田村浦  
 有吉 マス全、萩町北古萩  
 來島 マシ全、山田村奥玉江  
 河村キクヨ全、萩町土原  
 瀬川 愛子 生雲村 萩町江向  
 増山喜入子全、萩町米屋町  
 田村 ツル全、山田村山田  
 板垣 龍子全、萩東田町  
 大和屋静子全、萩町濱崎  
 田口 雪枝全、椿村  
 坂本レズ子全、明木村  
 町田 松子全、椿村字椿  
 大庭ツル子全、萩丸町  
 上野 ユキ全、萩町濱崎  
 溝部 勝子全、萩町  
 時山 綾子全、山田村奥玉江

- 小野 時代阿、奈古村  
 堀 コト全、山田村玉江 樺郷東分村香川津  
 長谷川久子全、萩町濱崎  
 上田 タチ全、全熊谷町  
 田坂 クリ全、椿村河内  
 波多野 トミコ全、萩西田町  
 三上 ヨシ子全、山田村奥玉江  
 國弘 淑子全、萩町川島  
 河崎 一子全、全堀内  
 上野 ユキ子全、全平安古  
 刀禰 フユ全、全東田町  
 椿 マス子全、佐々並村  
 植村 マサ全、椿郷東分村香川津  
 井原 フキ全、萩町土原  
 三好 まつ全、椿郷東分村
- 第一學年菊組 (年齢順)  
 氏名 本籍 近況  
 椋木 里大、三隅村三隅上  
 御手洗峯子阿、川上村立野  
 小池 キヨコ全、生雲村  
 岸下 チヨ全、山田村  
 國司 フミ全、萩町土原
- 伊藤 節子阿、萩町  
 黒瀧志津子全、山田村奥玉江  
 能美ツチ子全、川上村山田  
 松尾スエコ全、萩熊谷町  
 白石 久子全、全江向  
 吉村 キヨ全、椿村青海  
 池田ハルヨ全、萩町土原  
 宗榮ヨシコ全、全橋本  
 田中 俊子全、椿村字椿  
 小野村チヨ全、山田村  
 藤井 定子全、萩郷東分村  
 岡本タキ子全、萩春若町  
 茂川 ナエ全、宇田郷村惣郷 樺郷東分村推原  
 小峠ヒサコ全、山田村木間  
 中村 ヨシ全、萩今魚店町  
 黒瀧 壽子全、椿村金谷  
 金子 ヒサ全、萩町川島  
 野田 喜代全、萩町南古萩  
 吉田 ヨシ全、萩町平安古  
 粟屋 勝全、萩郷東分村  
 時山 トシ全、山田村中渡 樺郷東分村推原  
 桂 壽子玖、岩國町錦見 樺郷東分村推原
- 國重タツ子阿、萩東田町  
 水津 ヒデ全、奈古村  
 山根 静子全、大井村  
 栗田シゲヨ全、嘉年村嘉年上  
 藤村ミツ子全、萩熊谷町  
 小枝千代子全、萩町東濱崎  
 小田エウ子全、奈古村  
 藤山於菟子全、萩町  
 齋藤 キミ全、椿郷東分村  
 田北 綾子全、萩町  
 倉重フミ子全、椿郷東分村推原  
 中村フサ子全、萩町濱崎新町  
 島本ヨシコ全、萩町濱崎  
 池永 オヨ全、山田村  
 井本 捷子全、須佐村本町中  
 松浦ミサチ全、萩町川島  
 中村 正子全、山田村奥玉江  
 松浦ヒサ子全、萩町東濱崎  
 有吉ノブ子全、西田町  
 弘兼 静子全、椿郷東分村舟津  
 大山千代子全、椿村沖原  
 赤木ツチヨ全、萩郷東分村  
 澄川 フキ吉、山口町道場門前萩町川島

若葉の陰に杜鵑の聲を聞く頃と相成候 借米原校長先生  
 よは今回突然都濃郡立都濃高等女學校長として御榮轉のこ  
 と、相成申候 在校會員は更なり校外會員各位の御驚きさ  
 こそと推察申上候 回顧すれば本校創立以來六年今日の盛  
 大を見るに至りしこと一にこれ先生の御計畫のよろしきと  
 御奮勵の賜物と存居候 先生人となり温厚にして義氣あり  
 堅忍力行在職六ヶ年余にして缺勤僅よ三日諄々として教へ  
 導きたまひしよ今や其の風手に接する機も勘かるべく追慕  
 の情轉々禁ずべからざるものこれあり候 茲よ各位よ右の  
 次第を報じ共よ謹で先生の將來の御健康と御福祉とを祈り  
 奉る次第よ御座候

山縣阿武郡立實科高等女學校  
南園會報部  
中野貞介  
株式會社萩響海館  
溝部留槌

大正七年五月三十日印刷  
大正七年六月七日發行

(非賣品)

發行所

山口縣阿武郡立實科高等女學校

南園會報部

右代表者

山口縣阿武郡立實科高等女學校內

中野貞介

編輯兼  
發行者

山口縣阿武郡萩町第貳千貳百六番屋敷

株式會社萩響海館

印刷所

山口縣阿武郡椿馬東分村第千三百三十番地

印刷者

溝部留槌

